

都市工学科のあゆみ

都市工学科学科長
古米 弘明

都市工学科の創設

都市問題及び環境問題の重要性が広く一般に認識される以前の1950年代後半から新学科設立の動きがあった。

- 1958年：土木工学科から衛生工学科を申請
 - 1960年：建築学科から都市計画学科を申請
 - 1961年：両者が共同して都市工学科を申請
- ⇒1962年（昭和37年）：都市計画5講座と衛生工学3講座からなる都市工学科として発足

学科発足後の担当教官陣容(1968年)

都市計画

敬称略

- 第一講座(都市基本計画): 日笠端、川上秀光
- 第二講座(都市設計): 丹下健三、大谷幸夫
- 第三講座(住宅地計画、都市解析):
本城和彦、下総 薫
- 第四講座(都市防災、国土及び地方計画):
高山英華、伊藤 滋
- 第五講座(都市交通計画): 井上 孝、新谷洋二

学科発足後の担当教官陣容(1968年)

衛生工学

敬称略

- 第一講座(上水道):
板倉誠、石橋多聞、綾日出教
- 第二講座(下水道、都市衛生):
徳平淳、市川新
- 第三講座(水質汚濁、水処理):
杉木昭典、松尾友矩

それ以降の教授の方々

敬称略

都市計画分野

大谷幸夫、下総 薫、伊藤 滋、新谷洋二、
川上秀光、渡辺定夫、森村道美、太田勝敏、
岡部篤行、北沢 猛(新領域)

衛生工学分野

松本順一郎、藤田賢二、松尾友矩、
矢木修身、大垣真一郎、中西準子(環境安全セ)

元特任教授、元客員教授など

敬称略

特任教授:

関沢愛(消防)、明石達生(まちづくり)、
多田 宏行(まちづくり)

客員教授:

桜井国俊(国際環境計画)、浅野孝(国際環境計画)、
国包章一(水環境セ)

特定研究客員大講座教授:

三村信男、高田秀重(水環境セ)

都市工学科の沿革

- 昭和37年(1962) 都市工学科発足
- 昭和41年(1966) 第1回の卒業生、修士課程設置
- 昭和43年(1968) 博士課程設置、東大紛争
- 昭和57年(1982) 留学生特別コース設置
- 平成 4年(1992) *大学院重点化、国際環境計画(クボ
タ)寄付講座*
- 平成10年(1998) 空間情報科学研究センター設置
- 平成12年(2000) 水環境制御研究センター設置
- 平成15年(2003) 消防防災科学技術寄付講座
- 平成16年(2004) *国立大学法人化*
- 平成19年(2007) 社会人大学院・都市持続再生学コ
ース「東大まちづくり大学院」設置、都市持続再生学
寄付講座

昭和57年(1982) 留学生特別コース設置

「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」 英語による都市工学留学生教育特別プログラム

1. 基本的理念と特色

平成18年度 採択時

本プログラムは、都市工学、すなわち、都市空間・都市環境の形成管理技術に関する最先端の知見を体系的・統合的に教育し、産業界、大学・研究機関、政府機関・国際機関、および NGO 等の市民セクターにおいて主導的役割を果たす優れた国際的人材を育成する。もって、持続的発展可能な都市の形成と再生という、アジアならびに世界各国共通の課題に関し、学術の一層の発展と実効的な政策の樹立に寄与することを目的とする。

本プログラムを運営する都市工学専攻は、都市空間と都市環境の形成管理に関する諸技術、すなわち、都市活動の分析や環境制御に関する工学的技術、快適で良質な都市空間を構想する計画・デザイン技術、都市形成に関わる諸主体を調整統合する政策調整技術、の3つの技術の統合を目指しており、世界的に見ても、先駆的でユニークな教育研究拠点としての特色を有している。

都市工学専攻の運営する本プログラムは、従来、既設コースにおいて都市工学専攻の担ってきた教育プログラムを拡充し、都市工学専攻が有する先駆性・統合性・国際性を十全に発揮し、アジア各国の風土的・社会的・文化的特質の理解を踏まえた技術と政策の適用といった高度な内容を含め、都市工学に関する先端かつ統合的・国際的な教育プログラムを提供するものである。

2. 特色ある研究・教育分野

研究型大学院大学としての特色を最大限に生かし、本プログラムにおいても、一般プログラムと同様、修士研究、博士研究の実施を、プログラムの根幹をなす重要な教育プロセスと位置づけている。本プログラム担当教員は都市工学専攻の専任・兼任教員全員であり、都市の持続的な成長・再生に関わるエンジニアリング・マネジメント・政策分野の研究が一体化・統合化された、国際的に特色ある研究・教育拠点として、最先端の研究指導を提供できる体制を有している。専門分野は下記の通りである。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/kokuhi/tokubetu/07032701.htm

平成4年(1992)国際環境計画(クボタ)講座

Welcome to INTEP

International Environmental Planning Center,
Department of Urban Engineering,
The University of Tokyo

北協研究室(国際環境計画講座、株式会社クボタ寄付講座)へようこそ

1. [Introduction to the INTEP、国際環境計画講座について](#)
2. [English News Letter\(No.1-10\)](#)
3. [和文ニュースレター\(第1～10号、臨時増刊号\)](#)
4. [Kubota Library、クボタ文庫](#)

桜井国俊 元客員教授
北協秀敏 元客員助教授

クボタ文庫

<English News Letter(No.1-10)>

1. [English News Letter No.1](#)
2. [English News Letter No.2](#)
3. [English News Letter No.3](#)
4. [English News Letter No.4](#)
5. [English News Letter No.5](#)
6. [English News Letter No.6](#)
7. [English News Letter No.7](#)
8. [English News Letter No.8](#)
9. [English News Letter No.9](#)
10. [English News Letter No.10](#)

1992年10月1日に、東京大学工学部都市工学科に、寄付講座国際環境計画が株式会社クボタのご協力を得て3年間の予定で発足しました。本講座の目的は、我が国の対途上国環境協力をより効果的なものとするべく、研究・教育・情報提供活動を行っていくことにあります。

ニュースレター第一号より

<http://www.env.t.u-tokyo.ac.jp/project/INTEP/index.html>

平成10年(1998) 空間情報科学研究センター設置

**東京大学 空間情報科学研究センター**
Center for Spatial Information Science The University of Tokyo

ENGLISH HOME

**東京大学**
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[CSIS紹介](#) [メンバー](#) [研究活動](#) [サービス](#) [アクセス・地図](#) [拠点・交流校](#)

<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/japanese/index.html>

あいさつ



浅見泰司センター長

2010年4月1日から、第3代センター長に就任いたしました浅見泰司です。岡部篤行初代センター長、柴崎亮介第2代センター長の築かれてきたセンターの空間情報科学推進のための重要な役割を十分に認識し、今後も皆様のご期待に沿うように励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度より、空間情報科学研究センターは空間情報科学研究拠点（共同利用・共同研究拠点）となりました。ちょうど新たな中期計画期間にも入り、共同研究デジタル実験フィールドの構築に向けてさらなる成長を遂げるべく努力しております。共同研究デジタル実験フィールドとは、環境や社会変化、人・モノの動き等に関するリアルタイム空間情報などを対象に研究用データとデータ処理サービスを共同研究基盤として整備・提供することで効果的な共同利用・共同研究を実施しようというものです。当センターでは、共同研究用に空間データを多く整備しておりますが、より効率的な利用を可能にするには、様々なシステム

10月から
貞廣幸雄教授へ

平成12年(2000) 水環境制御研究センター設置



Research Center for Water Environment Technology
School of Engineering, the University of Tokyo

[サイトマップ](#)[English](#)

東京大学 大学院工学系研究科附属

水環境制御研究センター

花木啓祐 センター長
村上孝雄 客員教授
古米弘明 教授
栗栖 太 准教授

[HOME](#)

[活動方針](#)

[メンバー](#)

[シンポジウム](#)

[研究現況](#)

[研究業績](#)

[海外サテライト](#)

センター概要



詳しくはセンター
パンフレットでご覧下さい。

本研究センターは、2000年4月に発足しました。

環境本位型社会における多様な社会的要望に応えられるような先端的水環境制御技術の開発研究を、微生物の機能を利用した技術を中心に重点的に進め、また、微生物生態学などの基礎科学と水処理工学などの実学の融合・連携から新たな技術体系を構築することにより、地域特性に根ざした技術の開発を行うことを目的とし、様々なアプローチで研究を進めてまいりました。

2010年4月からは、第2期として活動を継続しつつ展開しております。

東南アジア水環境シンポジウムや水環境センターシンポジウム、論文集の出版、CRESTプロジェクト

<http://www.recwet.t.u-tokyo.ac.jp/>

COE形成プログラム(1996-2001)

複合微生物系の機能を利用した高度水処理技術の体系化とその評価

＜研究代表：松尾 友矩(1996-2000)、大垣 眞一郎(2001)＞

研究の概要： 現代社会は上下水道システム抜きには考えることはできない。上下水処理において、微生物相の管理は環境の保全や水の安全性の管理のために重要な課題となっている。従来の微生物学では、その微生物相を解析するために、単離・培養という操作が不可欠であった。単離・培養に根ざした微生物学を水処理系に適用するというアプローチは一定の成果をあげたが、それで水処理系での微生物の働きが全て明らかになったわけではない。それは、水処理系での微生物はさまざまな種類の微生物が共存する複合微生物系として機能しているからであり、単離した瞬間に失われてしまう機能があるかもしれないからである。本研究では近年発展してきた分子生物学的な微生物相解析技術を積極的に取り入れ、水処理技術を”複合微生物系”という視点から評価および体系化をすることを目的とする。

研究期間：平成8年度～12年度

研究費： 約6億円

<http://www.env.t.u-tokyo.ac.jp/project/COE/pamphindex-j.html>

平成15年(2003) 消防防災科学技術寄付講座



東京大学消防防災科学技術寄附講座
Fire and Disaster Management Lab., The University of Tokyo

山田研 ONLINE

ホーム
寄附講座とは？
研究内容
最近の活動
メンバー
アクセス
リンク
ご案内
内部連絡

東京大学消防防災科学技術寄附講座

Fire and Disaster Management Lab., The University of Tokyo

< Contents >

 ホーム	 寄附講座とは？
 研究内容	 最近の活動
 メンバー	 アクセス
 リンク	 ご案内



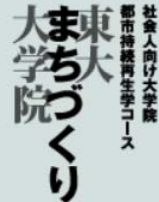
東京大学工学系研究科都市工学専攻 / Fire and Disaster Management
山田 常圭 特任教授
YAMADA Tsunetaka
工学系研究科都市工学専攻
都市防災・都市防災計画
消防防災支援システム、防災管理
都市安全計画

山田常圭 特任教授

<http://www.fse.t.u-tokyo.ac.jp/index.htm>

消防防災科学技術寄付講座は、平成15年2月、東京大学大学院工学系研究科・化学システム工学専攻に設立され、当初3年間の予定で運営が開設された。その後、初期の目的に添って着実に成果を挙げ、その活動実績が認められたことで、平成18年2月には2年間の延長が決まり、所属を都市工学専攻へ移して講座を継続した。平成20年1月に第1期目を終了したのち、これまでの実績や存在意義の重要性に鑑み、また、首都直下地震等の巨大地震への備えや、少子高齢化社会での安全安心、持続的環境形成と防災対策の調和など、いくつもの新たな課題への挑戦のために、2期目5年間の更新が認められ、再び都市工学専攻において設置、スタートし現在に至っている。

平成19年(2007) 社会人大学院・都市持続再生学コース 「東大まちづくり大学院」設置、都市持続再生学寄付講座



TOP | 概要 | カリキュラム | 教員 | イベント情報 | 入試情報 | お問い合わせ | Q&A

Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

News

<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/outline.html>

講義情報 (2012.09.10)

2012年冬学期の日程表とシラバスを掲示しました。詳しくは[こちら](#)。

ニュースレター (2012.4.1)

ニュースレター第7号を公開しました。詳しくは[こちら](#)。

入試情報(2012.4.1)

2012年度コース案内について公開しました。詳しくは[こちら](#)。

入試情報(2012.3.15)

2012年度入試概要を公開しました。詳しくは[こちら](#)。

安藤 尚一 特任教授
遠藤 薫 特任教授
松行美帆子 元特任准教授

設立の趣旨：本コースは、都市づくり、まちづくり等の実務経験者(留学生を含む)に対する高度かつ総合的な教育を行い、日本やアジアを含む世界の都市づくり・まちづくりの現場において持続的な都市の形成・再生を実践・主導する高度専門職能人を養成することを目的として設立される社会人大学院である。

学内の関連研究教育機関

- 工学部付属総合試験所建築方面研究室（その後、2004年4月附属総合研究機構へ）
- 先端科学技術研究センター（1987年5月設立）
- 環境安全研究センター（1975年4月設立）
- 空間情報科学研究センター（1998年4月設立）
- 新領域創成科学研究科環境学研究系（1999年4月発足）
- 水環境制御研究センター（2002年4月設立）
- サステイナビリティ学連携研究機構（2005年設立）

東京大学先端科学技術研究センター(通称「先端研」)

1987年設置



3 研究体制と領域



大西隆教授、西村幸夫教授、栗栖聖講師

<http://sbk.k.u-tokyo.ac.jp/>

都市工学科創立50周年記念式典 2012年11月1日

山本和夫教授、中島典之准教授



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

| [ENGLISH](#) | [サイトマップ](#) |



[柏支所](#) | [廃棄物に関する質問](#) | [排出許可番号申請](#) | [AGS](#) |

[検索](#)

環境安全研究センター Environmental Science Center

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel 03-5841-2972(事務室) FAX 03-5841-1233



■ 実験廃棄物

- L分類の排出方法
- 実験廃棄物の排出方法
- 分別早見表
- 実験系プラスチック
- 廃棄試薬
- ポリ容器の入手方法
- 不明試薬
- 不明廃液

■ 生活系廃棄物

- 生活系廃棄物の概要
- 分別早見表(2010.6更新)
- 生活ゴミQ&A
- 分別便利帳[pdf]

What's new!

**第22回環境安全研究センターシンポジウム
「環境・安全における大学の社会貢献」**
平成24年12月11日(火)に東京大学弥生講堂にて開催いたします。本シンポジウムでは、産学官のそれぞれの視点から、大学における環境安全管理・教育に対する展望を提示した上で、社会への貢献について議論いたします。多くの方々のご参加をお待ちしております。参加申し込みなど詳細は[こちら](#)から。(12/10/16)

Q&Aおよび排出許可番号申請システムの停止について

本郷キャンパスの停電および当センターのサーバのメンテナンスのため、以下の日程でQ&Aおよび排出許可番号申請システムを停止いたします。御不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。(12/9/14)

研究紹介

環境安全研究センターの各教員のページについての紹介です。

[各教員のページ](#)

業務内容

廃棄物の処理関係の情報は[こちら](#)を参照してください。

[実験廃棄物の回収と処理](#) [回収日時](#)
[処理状況](#) [環境監視](#) [排水分析](#)
[処理・分析施設](#) [柏支所の業務](#)

新領域創成科学研究科環境学研究系

1998年設置



社会文化環境学専攻

<http://sbk.k.u-tokyo.ac.jp/>

われわれが居住する都市という環境は、人の集まりであると同時に、建築や社会基盤施設などのハードウェアによって形成されています。また、都市も自然環境に依存せずには存続できません。環境問題と環境形成はこのようなさまざまな事象の相互作用の中で捉える必要があります。そのため、社会文化環境学専攻は新領域創成科学研究科のキーワードである「学融合」の理念を専攻レベルで具現化することを目指しています。

新着情報

▶ 「2013年度入試 修士課程内定者、博士課程4月入学希望者 第一次試験内定者、博士課程10月入学希望者 第二次試験内定者」を掲載しました。 [合格発表のページ](#)

味埜俊教授、出口敦教授、佐藤弘泰准教授

専攻概要	教員・研究室紹介	在校生へ	受験生へ
専攻長挨拶	教員一覧と専門分野	年間スケジュール	入試情報
本専攻について	教員連絡先	教務情報	入試説明会
学融合の試み		話壇セミナー	卒業生へ
連絡先・アクセス		専攻図書室(環境棟内限定)	一級建築士受験



ホーム

IR3S概要

イベント

ニュース

研究

教育

産学連携

出版物

アクセス

リンク

IR3S概要

機構長挨拶

設立の目的と発展の歩み

サステナビリティ学とは

サステナビリティに向けた東京大学の取り組み

主要な研究教育・国際連携活動

IR3Sメンバー



[ホーム](#) > [IR3S概要](#) > 設立の目的と発展の歩み

[ENGLISH](#)

サステナビリティ学連携研究機構IR3Sについて

設立の目的

地球・社会・人間システムの統合による持続型社会の構築を目指して、超学的なサステナビリティ学に関する世界最高水準の研究拠点を維持発展させるとともに、先進国・途上国を結ぶ国際メタネットワークの拠点を形成することを目的として設立されました。

IR3Sの業務内容

上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行います。

- (1) サステナビリティ学に関する研究教育の推進
- (2) 研究教育に関連した国際シンポジウム等の開催
- (3) 国内外の大学・研究機関とのメタネットワークの形成
- (4) 国際学術誌、学術図書、啓蒙書等の刊行
- (5) 研究成果の社会への還元
- (6) その他、目的達成のために必要な業務

福士謙介准教授

<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>

IR3S 発展の歩み

平成17(2005)年度科学技術振興調整費(戦略的研究拠点育成)に採択された「サステナビリティ学連携研究機

グローバルCOEプログラム「都市空間の持続再生学の展開」 2008-2013

基幹専攻：都市工学

東京大学グローバルCOEプログラム

都市空間の持続再生学の展開

Global Center of Excellence
for Sustainable Urban Regeneration

2008-2013
都市工学専攻
工学系研究科 社会基盤学専攻
建築学専攻

トップページ

拠点概要

研究部会

シンポジウム
展示会・講演会

人材育成・教育活動

報告書・出版物



<http://csur.t.u-tokyo.ac.jp/>

少子高齢化, インフラの老朽化, 都市環境の劣化, 都市災害の増加, 文化・歴史性の喪失

アジア環境リーダー育成プログラム(APIEL) 2008-2013



<http://www.envleader.u-tokyo.ac.jp/>

科学技術振興調整費



APIEL

Asian Program for Incubation of Environmental Leaders

アジア環境リーダー育成プログラム

お問い合わせ ENGLISH



プロジェクト代表: 味埜俊教授、花木啓祐教授

アジアの環境問題の現場において問題解決に貢献できる実践力と、あるべき社会像や進むべき道を示し社会を動かす力を併せ持った人材(環境リーダー)を育成します。

協力教員 / Collaboration

特任教員



小貫 元治 特任准教授

ONUKI Motoharu
新領域創成科学研究科環境学研究所
サステナビリティ教育プログラム

専門 サステナビリティ教育、
技術と社会、水環境工学

担当 大学院のみ

社会の持続性を脅かす新たな課題が現れて来る中、過去に学び、自ら思考して、分野にとらわれることなく柔軟に対応できる力を身につけよう。



アンキョンジン 特任講師

AN Kyongjin
共鳴型アジア環境リーダー育成プログラム

専門 Environmental Education,
Biological Wastewater Treatment

担当 大学院のみ

Environmental issues associated with complex and long term problems require future environmental leaders. Thus, the leadership seems to be changing towards a more participatory, open model, visible and necessary in times of rapid change. Indeed, I think that all of you will find yourselves leading others at some



星子 智美 特任助教

HOSHIKO Tomomi
共鳴型アジア環境リーダー育成プログラム

専門 大気環境、健康影響、
環境フィールド教育

担当 大学院のみ

実験室から、フィールドから、社会とのコミュニケーションから、様々なアプローチで積極的に環境課題を追求して下さい。

学部と大学院の学生定員

(但し、留学生含まない。)

学部 合計51名

都市環境工学 19名

都市計画 32名

大学院 (修士課程と博士課程)

前期課程(修士) 25名

社会人まちづくり(修士) 12名

後期課程(博士) 11名

駒場学生向け 分野KW
進学振り分け情報

都市環境工学 (環境共生・
国際公共衛生・水・環境バイオ)

都市計画
(都市と地域の分析・計画・デ
ザイン)

学
Voice

進学を考えている皆さんに、都市工学科・都市環境工学コースでの学生生活について、もっと知ってもらいたい！
そこで、都市環境工学コースの先輩6人に集まってもらって、学生の目線から、普段の学生生活から卒業論文や就職まで、本音で話してもらいました。



学生生活

――まずは、新入生の最初の学生生活について教えてください。

教員や大学院生との交流

教員や大学院生との交流

一時期や遠征では、教員や大学院生とのコミュニケーションも多いと思います。

学生
Voices

進学を考えている皆さんに、都市工学科・都市計画コースでの学生生活について、もっと知ってもらいたい！
そこで、都市計画コースの先輩8人に話を聞いてもらって、学生の日常から、春の学生生活から卒業論文や就職まで、本音を話してもらいました。



都市工学科・都市計画コースの概要

都市計画
Urban Planning

都市工学科は、現代の社会が要請するために設立された工学部の中では新しい学科です。その開設及び発展の過程の重要な役割を担ったのは、1960年代学部の発展後、1968年に都市計画実業を主眼とした、都市工学科の創設の目的は、都市の総合的発展（すなわち都市の空間的発展によって達成される経済的発展の計画・実行）を行うための教育・研究、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市の近郊領域の都市圏や全都市圏の都市化にとらわれず、農山村部を含む全国都市圏、さらには世界都市圏にまで及びします。工学は都市の総合発展の中核として、工学部の中では、工学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、新

[illegible]

「都市」について考えることは、
この「社会」について広く考えること。

- 1 都市工学科は東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的な教育、研究している学科です。
- 2 分野別の「専門課程」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けます。
- 3 皆で集まってくずかち＝「都市」を考えることで、皆でつくりだすこの「社会」が見えてきます。
- 4 都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています。

上置つてゐる。

します。

エシニアの世の中に感じています。聞かされている人、世帯になります。専業主婦に比べて、子供が少いですが、ハラスメントの男もこれまでに多い

「さ、はい。質問で
ます。
ほおしものがいい」
「うん、いいところだ
ねでも全然、科学だ、
平然とした男万を
とみて、疑問の表
面であるというメ
リッパは彼女が得ら
れています。
科学者、編纂し

anning Cou

2013 進学ガイダンス



東京大学工学部
都市工学科
Department of Urban Engineering
the University of Tokyo

都市環境工学コース
Urban Environmental Engineering Course

2013 進学ガイダンス



都市環境工学
Urban Environmental Engineering

～安全かつ快適な都市環境を将来世代にわたって創出していく～

[illegible]

環境問題の認知に合わせ、本コースの名称も、「環境・衛生工学コース」から「都市環境工学コース」へと変更し、改定に至っています。しかし、本コースの目標としては一貫して、都市の内側だけでなく都市の生活、生産活動の場全てを対象に、安全かつ快適な生活環境を育み世代間でつくり継いでいくことです。そのため、専門知識を基礎として新しい科学技術や知見を取り入れながら、適切な技術やシステムを開発し、それをどのように社会に展開すべきかを展開することが「都市環境工学」の使命です。

安全・快適な
都市環境の創出

循環型社会
持続可能性
Quality of Life
生態系保全

水質汚濁
大気汚染
地下水・土壌汚染
自然破壊
健康被害

地球環境問題
化石資源枯渇
少子高齢化
異常気象
ヒートアイランド

都市工学科の特徴

都市を支える「都市環境工学」
都市を構想する「都市計画」

- 東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的に教育、研究している学科です。 「場」、「物」、「技」、「知」
- 分野別の「専門講義」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けます。 問題発見力、課題解決力
- 都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています。 多様で複雑な利害関係を踏まえた、相互関係の理解力

都市社会環境

ヒト、人間、コミュニ
ティー、生活、行動、
社会活動

公共サービス

河川、上下水道、
エネルギー供給施設

資源、水、物質、エネルギー、金(資本)、情報

計量・分析、解析、設計・デザイン
保全・管理・修復・改善・制御
計画、制度、政策

経済、社会制度、法律

道路・街路、鉄道、通信施設

都市生活基盤・産業基盤

自然環境

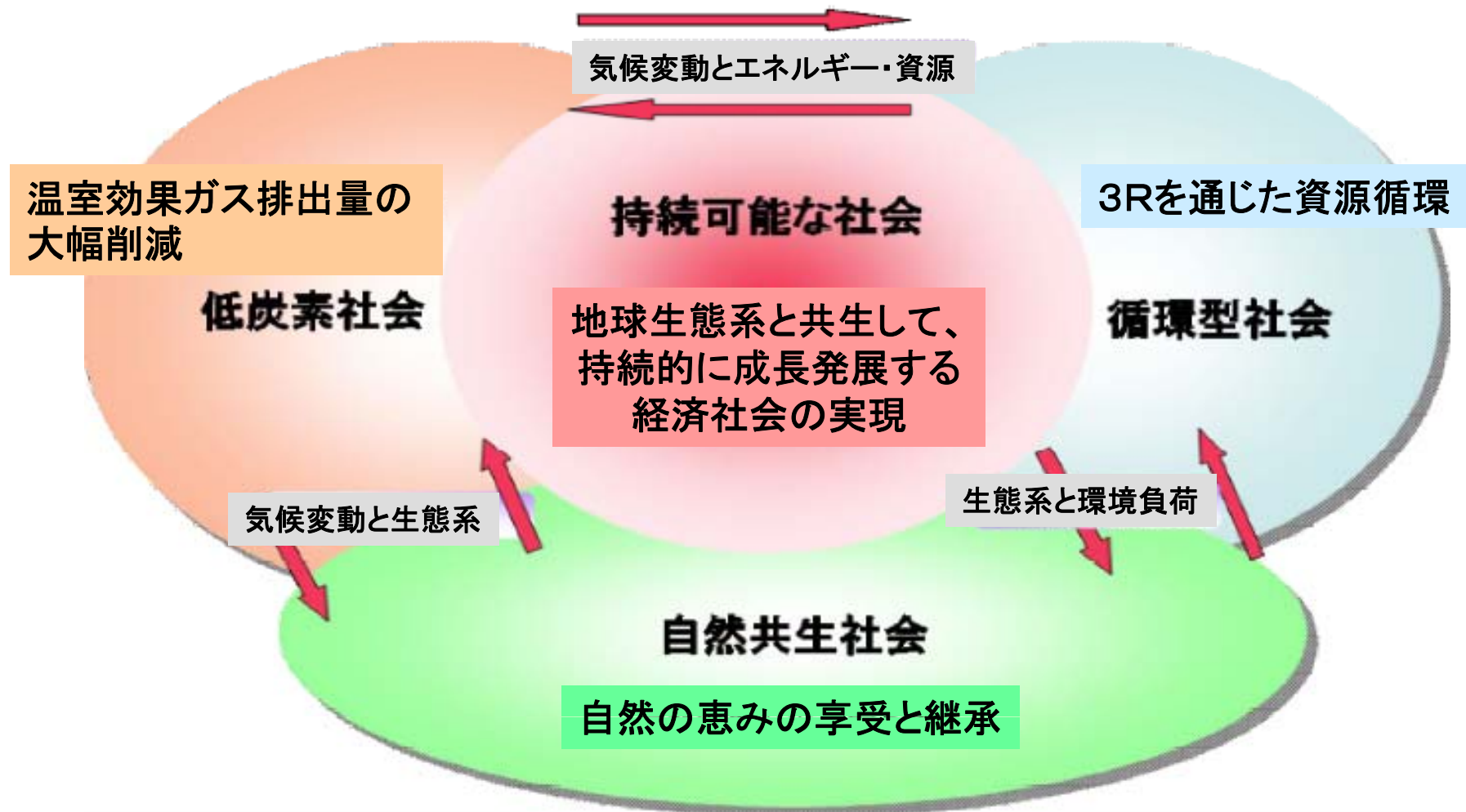
自然環境、生物、水辺、
居住空間、緑地、
オープンスペース、

公共空間

学校、病院、公園など
の公共施設

都市工学科の特徴

21世紀環境立国 持続可能な社会に向けた統合的な取り組み



都市工学科

「都市」について深く考えることは、この「社会」について広く考えること。

特徴

- 都市工学科は東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的に教育、研究している学科です。
- 都市を支える「都市環境工学」と都市を構想する「都市計画」の二つのコースで構成されています。
- 分野別の「専門演習」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けます。
- 皆で集まってくらすかたちで「都市」を考えることで、皆でつくりだすこの「社会」が見えてきます。
- 都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています。

都市を支える 都市環境工学

カリキュラム

都市を構想する 都市計画

カリキュラム

環境計画基礎演習／都市工学演習

環境工学実践演習

環境工学設計製図／都市工学演習

環境工学実践演習

環境工学設計製図／都市工学演習

環境工学実践演習

環境工学設計製図／都市工学演習

環境工学設計製図／都市工学演習

環境工学実践演習

学生生活

学生生活

学生生活

学生生活

都市工学科卒業生の進路

さまざまな分野で活躍する卒業生

■温暖化対策の外交交渉を担当

竹本和彦（1974年卒/中央官庁）

温暖化対策には世界各国の協働が必要です。日本の対外交渉の責任者として、世界を飛び回りながら、持続可能な社会に向けた温暖化対策の枠組みづくりに奔走しました。



■バイオテクノロジーで社会に貢献

宮 晶子（1977年卒/環境装置メーカー）

環境を浄化する微生物の機能や動態はまだ十分にわかっていません。バイオテクノロジーを駆使して微生物のチカラを活かした水処理技術や環境浄化技術を開発し、社会に貢献しています。



■土壌汚染の浄化で安全な街を

浅田素之（1991年卒/建設会社）

都市の再開発に伴ってさまざまなところで土壌汚染が見つかっています。効率よく汚染土壌を浄化する技術を開発し、安全で安心して暮らせる街づくりを支えています。



■途上国へ環境技術に移転する

松本重行（1993年卒/政府関係機関）

途上国では劣悪な環境の中で生活している人がまだ多くいます。これらの国々とパートナーシップを構築し、環境技術の移転や計画策定、施設整備を通して人々の生活基準の向上に尽力しています。



■逆都市化時代を展望する

大西 隆（1975年卒/大学）

都市における過密・高層化が繁栄だという幻想に、いつまで人々は惑わされつづけるのでしょうか。人口減少を逆手にとって、今こそ空間的・精神的な豊かさを実現するべく環境共生都市について研究しています。



■魅力的なまちを創る、市長

本多 晃（1971年卒/自治体）

首都圏の中で、都市と田園を組み合わせた魅力的なまちづくりに奮闘中です。首長として、国際学術都市の建設を推進し、ごみ処理問題や合併協議を取りまとめ、都市基盤という形に魂を入れていきたいと思っています。



■コーポラティブハウスの実現

宮本 愛（1997年卒/コンサルティング会社/NPO）

設計事務所勤務を経て、有限会社を設立しました。小規模の共同建替えやコーポラティブハウスに関するコンサルティングとともに、英国の開発トラスなどを題材に自立型まちづくりNPOの研究なども行っています。



■都市空間をデザインする

田中 互（1986年卒/設計事務所）

空間デザインを総合的にマネジメントする立場から、都市に新たな息吹を吹き込むプロジェクトに携わっています。六本木の東京ミッドタウン、名古屋のモード学園スパイラルタワースなどを手がけました。



■事業者、行政、住民の連携

一村一彦（1977年卒/商社）

天王洲アイル再開発の協議会運営や大規模複合商業開発を担当してきました。事業者・行政・住民が連携しながら、個々の建物や地区を一体の都市として総合的に計画していくプロセスを支える仕事をしています。



■頭も手も足も動くコンサルティング

渡辺千賀（1990年卒/コンサルティング会社/NPO）

シリコンバレーにコンサルティング会社を立ち上げました。事業開発と戦略案両方の経験を活かし、コンサルティング事業を展開する傍ら、NPOの代表として、日本人プロフェッショナルを支援しています。



都市工学科卒業生の進路

2010
都市工学科
同窓会名簿

主な就職先等(学部・修士H14-22)

中央官庁・地方公共団体

- 国土交通省 環境省 経済産業省 厚生労働省 林野庁 会計検査院
- 東京都 横浜市 埼玉県 千葉県 名古屋市 岡山県 鳥取県
- 都市再生機構 下水道事業団 国際協力機構 国際協力銀行

公社公団・
国際機関

- 鹿島 大成建設 清水建設 竹中工務店
- 三井不動産 三菱地所 野村不動産 森ビル 東京建物
- JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州 東急電鉄
- 全日空 日本航空 首都高速道路 日本郵船 商船三井

建設・不動産・
運輸

- 日建設計 都市環境研究所 類設計室 日本設計
- パシフィックコンサルタンツ 建設技術研究所 日水コン
- 野村総研 三菱総研 みずほ情報総研 大和総研

設計事務所・
コンサルタント

- 三井住友銀行 三菱UFJ信託銀行 みずほ信託銀行 日本政策投資銀行

- JPモルガン ゴールドマンサックス みずほ証券

銀行・証券・保険

- 日本生命 東京海上日動火災保険 日本興亜損保

- 三菱商事 住友商事 三井物産 伊藤忠 丸紅

- NHK NTTドコモ IBM 富士通 電通 博報堂

商社・放送・通信・
広告

- 東京電力 東京ガス 電力・ガス

- 荏原製作所 三井造船 栗田工業 住友重機械 メタウォーター

- 日立製作所 トヨタ キリン

製造業・エンジニアリング・

都市工学科

「都市」について深く考えることは、この「社会」について広く考えること。

特徴

- 都市工学科は東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的に教育、研究している学科です。
- 都市を支える「都市環境工学」と都市を構想する「都市計画」の二つのコースで構成されています。
- 分野別の「専門演習」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けます。
- 皆で集まってくらすかたちで「都市」を考えることで、皆でつくりだすこの「社会」が見えてきます。
- 都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています。



それぞれの
ライフコース

実社会へ

- 環境システム研究室
- 環境リスク管理研究室
- 都市水システム研究室
- 都市衛生工学研究室
- 水環境制御研究室
- 環境微生物機能研究室

大学院へ

- 都市計画研究室
- 都市デザイン研究室
- 住宅・都市解析研究室
- 都市情報・安全システム研究室
- 国土・都市計画・地域計画研究室
- 都市交通研究室
- 都市社会学・ネットワーク行動学研究室
- 環境デザイン研究室

各分野で活躍する卒業生たち

■温暖化対策の外交交渉を担当
竹本和雄 (1974年卒/外交官)
温暖化対策には世界各国の協力が不可欠です。竹本氏は、国際的な交渉を担当し、温暖化対策の推進に貢献しています。

■バイオテクノロジーで社会に貢献
高橋 雄子 (1977年卒/環境保護専門家)
環境保護とバイオテクノロジーの分野で、高橋氏は環境保護の推進に貢献しています。

■土壌汚染の浄化で安全な街を
清田 健之 (1991年卒/建設会社)
土壌汚染の浄化と安全な街の建設に、清田氏は建設会社で貢献しています。

■途上国へ環境技術を移転する
松本 健行 (1993年卒/国際機関)
途上国への環境技術の移転に、松本氏は国際機関で貢献しています。

■近都市化時代を展望する
大野 雅 (1975年卒/大学)
近都市化時代の展望と研究に、大野氏は大学で貢献しています。

■魅力的なまちを創る、市長
本郷 典 (1971年卒/自治体)
魅力的なまちの創造と市長としての責任に、本郷氏は自治体で貢献しています。

■コーポラティブハウスの実現
高木 聖 (1997年卒/コングレガショナル/NPO)
コーポラティブハウスの実現とコミュニティの発展に、高木氏はNPOで貢献しています。

■都市空間をデザインする
田中 直 (1998年卒/建築事務所)
都市空間のデザインと建築事務所で、田中氏は都市空間のデザインに貢献しています。

■事業者、行政、住民の連携
一村 一彦 (1977年卒/自治体)
事業者、行政、住民の連携と自治体で、一村氏は都市の発展に貢献しています。

■誰もが手も足も届くコンサルティング
渡辺 千賀 (1999年卒/コンサルティング/NPO)
誰もが手も足も届くコンサルティングとNPOで、渡辺氏は都市の発展に貢献しています。



演習・実験
大規模な都市計画の演習で、学生は都市の発展を模倣しています。

見学・調査
最新の設備を用いて、環境浄化装置の調査を行っています。

成果物・作品
3年生の夏には、広域スケールで都市のまちづくりの模倣を見学します。

成果物・作品
環境問題は世界共通。海外で環境省にエングラヴィングする機会もあります。

成果物・作品
都市のヒートアイランド現象のシミュレーションの結果を提示しています。

成果物・作品
卒業設計では、都市の発展に貢献するまちづくりの模倣を行います。

都市工学科のカリキュラム

講義：2コース共通、必修なし

都市環境工学コース

持続可能で安全・
快適な都市のための
環境計画と技術開発



演習
実験



見学
調査

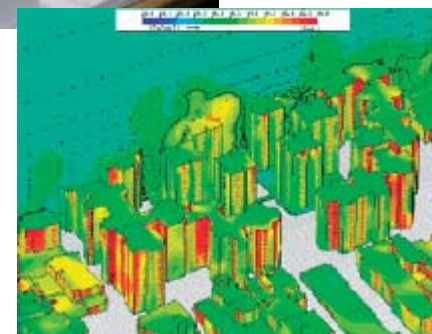


都市計画コース

建築、街区から都市、
そして広域へ
多様なスケールに対応
する計画技法



成果
作品



特色科目

必修科目：2年 環境計画基礎演習・都市工学設計製図

3年・4年 環境工学実験演習・都市工学演習、卒業研究・卒業設計 独自のテーマで輪講 30

都市工学科の研究・教育活動

都市計画：9研究室

都市計画
都市デザイン
住宅・都市解析
都市情報・安全システム
国際都市計画・地域計画
都市交通
環境デザイン
都市生活学・ネットワーク
行動学
空間デザイン

都市環境工学：6研究室

環境システム
都市水システム
都市資源管理
水環境制御
環境質リスク管理
環境微生物機能

■都市計画研究室

都市や都市を超えて広がる生活空間の形成と維持管理の方法を探求しています。市街地や集落の形成変容過程の把握、空間像の構想やその共同的探求方法、そこに至る計画や規約などの作成と評価、計画策定時に必要不可欠な参加手法の検討、これらを組み合わせた計画制度の設計と検証などが関心領域です。近年では、高齢社会対応のまちづくり、人口減少下での都市空間の再編手法、都市・地域空間計画制度の抜本的再編にも注目しています。

都市計画研究室 / Urban Land Use Planning		
 大方 潤一郎 教授 OKATA Junichiro 工学系研究科都市工学専攻 専門 都市計画概論、土地利用計画論、都市工学演習A 都市や町とは多様な主体が相互に作用する多様な要素の集合体です。それら多様な要素が相互に作用し変容するようマネジメントすることが都市計画の目的（プランニング）です。プランナーの仕事は、個々の要素をデザインしたり調整することではなく、相互の関係を調整してその集合をデザインしたり調整したりすることです。そのための問いは多岐にわたります。	 小泉 秀樹 准教授 KOIZUMI Hideki 工学系研究科都市工学専攻 専門 コミュニティ・デザイン、まちづくり論、コミュニティデザイン 都市工学概論、市街地整備論、都市工学演習A コミュニティをデザインすることはできるだろうか？少子高齢社会におけるコミュニティのあり方とそこへの到達手段について一緒に考えてみませんか。	 真鍋 陸太郎 助教 MANABE Rikutarō 工学系研究科都市工学専攻 専門 都市の発展、ICTとまちづくり、都市計画・まちづくりを伝える 都市工学設計概論、都市工学演習A 効果的で素晴らしい都市計画やまちづくりを実現するには都市の情報を正確に把握することが必要です。情報の行き来（収集と提供、さらに編集など）を楽しく実現できる社会を実現しましょう。

■都市デザイン研究室

都市に積み重ねられた意図を読み解き、持続的な魅力ある暮らしの場を実現する「研究」と「実践」に取り組んでいます。「研究」では、各自が自分のテーマを選びます。「実践」としては、日本の大都市から海外の小さな集落まで、様々な地域社会において、住民の皆様や自治体の方々と協働しながら、綿密な調査をふまえた実験や提案をしています。「研究」と「実践」の深い呼応が重要だと考えています。

都市デザイン研究室 / Urban Design		
 西村 幸夫 教授 NISHIMURA Yukio 先端科学技術研究センター 専門 都市デザイン、都市保全 担当科目 都市保全計画、都市工学演習 A 都市計画という学問にとって、地域は教室であり、まちが教科書です。多様な対象を相手にする、関口の広い学問の面白さを感じてください。	 窪田 亜矢 准教授 KUBOTA Aya 工学系研究科都市工学専攻 専門 都市デザイン、水環境、都市の融合 担当科目 中間計画設計論、都市工学演習 A 都市、これほど魅力的な研究フィールドがあるでしょうか。常に刺激的で、常に驚々としている。自分の切り口で都市に関与し、多様な課題を受け、創造的な都市をデザインしてください。	 黒瀬 武史 助教 KUROSE Takefumi 工学系研究科都市工学専攻 専門 都市デザイン・工場の歴史や路の再生・公共空間の創出 担当科目 都市工学設計演習、都市工学演習 A 現実の都市空間を形作る、たくさんの要素を解きほぐし、その先を考える、刺激的な毎日です。一筋縄では行かないからこそ面白い、都市を一緒に考えてみませんか。

■住宅・都市解析研究室

都市住宅論、都市解析、地理情報システム論を中心とした研究活動を行います。数理的手法や情報システムを駆使し、都市現象や居住システム、さらには都市居住に関わる心理的側面や人間の空間認知や行動に至るまで、幅広い対象を扱います。研究の方法も、記述や分析などから、計画立案、シミュレーションまで多様な点が特徴です。

住宅・都市解析研究室 / Housing and Urban Analysis



浅見 泰司 教授
ASAMI Yasushi
空間情報科学研究センター

専門 空間情報解析、都市計画、都市地理学

担当科目 都市工学数理解答Ⅰ、都市解析、都市住宅論、都市工学演習A

生物の営みをシステムとしてとらえると、その合理性と統合性に感嘆させられます。都市の様々なシステムをそのような観点から再構築していきましょう。



貞広 幸雄 准教授
SADAHIRO Yukio
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市解析、空間情報科学、地理情報システム

担当科目 都市工学数理、地理情報システム論、都市工学演習A

電子地図や GPS など、テクノロジーの発達は都市計画の進化に大きく貢献しています。今後更に発達する科学技術を、都市生活にどう活用できるか、一緒に考えてみませんか？



刀根 令子 助教
TONE Ryoko
工学系研究科都市工学専攻

専門 住環境選択、社会・心理的評価

担当科目 都市工学統計演習、都市工学演習A

都市は物理環境でもあり、そこに暮らす多様な人たちの人間環境でもあります。人間の社会・心理的側面も含めて考え、今後の都市の新しいアイデアを発見していきましょう。

■都市情報・安全システム研究室

都都市の安全化計画、情報技術の都市計画・防災計画への応用、市街地の環境評価技術の開発が主なテーマです。都市災害のシミュレーション分析、環境シミュレーターをはじめとする計画策定支援システムの開発、防犯環境設計や防災計画に関する実証的分析等を行います。

都市情報・安全システム研究室 / Urban Information Safety



小出 治 教授

KOIDE Osamu

工学部研究科都市工学専攻

専門

都市防災、都市防犯
都市安全

担当
科目

都市安全計画、都市工学演習A

自分の頭で考え、自分の足で調べる。他人の意見を聞き、決断する。単純なようで困難な方法ですが、バランスよく研究しよう。

■都市交通研究室

都市の交通とその計画について研究を行っています。都市における人・物・情報の移動を対象に、計画の立案に必要な調査・分析手法の革新、持続可能なモビリティを提供する交通戦略と計画制度、交通まちづくり、情報社会と交通などを主なテーマとして幅広い研究活動を行っています。



原田 昇 教授
HARATA Noboru
工学系研究科都市工学専攻

専門 交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動計画

担当科目 都市交通論、都市交通施設計画、都市工学演習A

いろいろな町をみて、人と出会い、議論する中で、異なる価値観の衝突も覚えつつ、自慢できる町を作り上げるために都市工学に何ができるのかを理解し、専門的に磨き下げるテーマを見つけてほしいと思います。



大森 宜暁 准教授
OHMORI Nobuaki
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市交通計画、活動・交通行動分析、P/D/Aフリーのまちづくり

担当科目 都市交通システム計画、都市工学数理演習II、都市工学演習A

毎日の生活は交通なしでは成り立ちません。都市で生活する全ての人々が移動しやすいまちを作ることに関心がある学生さん、一緒に勉強しましょう。



高見 淳史 助教
TAKAMI Kiyoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画

担当科目 都市工学設計演習、都市工学演習A

交通は都市生活を支える大事な要素です。人が暮らしやすく社会的にも望ましい都市のかたちと、それを実現するしくみを考えることが、都市工学科で交通を学ぶことの醍醐味だと考えています。

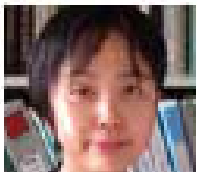
■国際都市計画・地域計画研究室

国際的視野を持ち、多様な空間スケールを対象として、都市に関する研究を総合的かつ実証的に行っています。国土・地域計画、発展途上国の計画論、都市開発・まちづくりの推進方策、市民まちづくり、環境共生都市の実現方策等を主なテーマとし、幅広い切り口から研究しています。

国際都市計画・地域計画研究室 / International Development & Regional Planning			
 大西 隆 教授 ONISHI Takashi 工学系研究科都市工学専攻 専門 国土計画、地域計画、低炭素都市 担当科目 国土及地方計画、現代ソサエティ論、都市工学演習A ネット社会で情報交流が密になっているのと同時に、人的な国際交流も盛になっています。日本に閉じこもらず、同世代の世界の人々と交流し、学び合う機会を作ってください。	 城所 哲夫 准教授 KIDOKORO Tetsuo 工学系研究科都市工学専攻 専門 アジア都市計画、国際化・ナレッジ、エコカルチュラルネットワーク 担当科目 国際都市地域計画論、都市工学演習A 世界も日本も大きな転換期にあり、社会のあり方を問う都市計画が時代をリードしていくことが求められています。学生みなさんの新しい発想に期待しています。	 瀬田 史彦 准教授 SETA Fumihiko 工学系研究科都市工学専攻 専門 人口減少時代の国土・地域、都市政策 担当科目 都市工学演習A、国土及地方計画 都市の論理は大きく変わろうとしています。既存の固定概念にとらわれず、自分の体で感じ、目で考えたことを素直に、そして正確に表現し、それらを仲間同士でぶつけ合ってみてください。	 片山 健介 助教 KATAYAMA Kensuke 工学系研究科都市工学専攻 専門 EUなど海外国の地域計画、国土計画、広域連携 担当科目 都市工学設計演習、都市工学演習A 都市計画の対象は身近な生活空間です。自分の足でたくさんのまちを歩き、様々な人達と議論してください。皆さんの主体的な姿勢と、都市を通して社会のあり方を考える意欲に期待しています。

■環境デザイン研究室

都市における緑地計画、景観計画、エコロジカル・プランニング、ランドスケープ・デザインについて、理論とデザインの双方から研究を行っています。都市再生における自然環境の回復と創造、ワークショップの実施、世界各地でのデザイン実践などを通して、持続可能な地球環境に寄与することを目標としています。

環境デザイン研究室 / Environmental Design	
 石川 幹子 教授 ISHIKAWA Mikiko 工学系研究科都市工学専攻 専門 都市環境計画、環境デザイン、自然共生 担当科目 環境デザイン論、都市工学演習A 都市工学は、学際研究とその社会的展開においてフロンティアとしての位置が与えられます。研究室では主要なテーマ「都市と自然の共生」とし、流域圏に基づくエコロジカル・デザインの展開により、アジアの自然共生都市の発展、都市バリエーションの再生、東日本大震災の復興など実践的な研究・開発を行っています。	 片桐 由希子 助教 KATAGIRI Yukiko 工学系研究科都市工学専攻 専門 緑地計画、小流域、環境データベース 担当科目 都市工学設計演習、都市工学演習A 都市計画分野の課題は多岐ですが、演習や研究室のプロジェクトを通じて自分なりの視点を発見することから、それらに寄り添う基礎が構築されます。都市における人と自然の共生に興味のある方、一緒に勉強しましょう。

■都市生活学・ネットワーク行動学研究室

ネットワーク上の行動理論を下敷きに、街路や駅を中心とする線形公共空間の計画、設計および、地域の空間特性や土地性を読みこんだツーリズムデザインに取り組んでいます。移動体通信システムを援用した大規模行動データとシミュレーション技術の開発や、欧州調査や日本の諸都市のフィールドワークを通じて、人間の生活と都市空間の関係について考えています。

都市生活学・ネットワーク行動学研究室 / Behavior in Networks



羽藤 英二 准教授
HATO Eiji
工学系研究科都市工学専攻

専門 ゲーム理論を基にした交通サービス設計、都市内進行動の解析とデザイン、ネットワーク行動モデル

担当科目 都市生活行動論、都市工学演習A

都市生活学研究室では、数理的なアプローチを下敷にした新たな都市計画手法の開発とモビリティデザインの実践を行っています。

9月から
社会基盤専攻 教授へ

■空間デザイン研究室

サステナブルな都市づくりの観点から、様々なスケールの空間のデザインに関わる研究と実践を進めています。特にコンパクトシティやエリアマネジメントに関する研究や、高密度なアジアの都市空間デザインに関する研究を進め、アジア都市の魅力と可能性を「Asian Urbanism」として提唱しています。また、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)の活動の中心的役割を担いながら、実践活動も推進しています。

空間デザイン研究室 / Spatial Design



出口 敦 教授

DEGUCHI Atsushi

新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

専門 都市開発、コンパクトシティ、
エリアマネジメント

担当
科目

都市デザイン概論、都市工学演習 A

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」というダーウィンの言葉は、果たして都市にも当てはまるのか？変化の力を利用して都市を進化させていく空間デザインを共に考えてみたい。

■環境システム研究室

持続可能な社会の実現のための施策の提案にあたっては、汚染物質の動態把握や処理技術に代表される工学的アプローチが重要となる一方、施策提案を受け入れる市民がどのような態度を形成し行動にまで移すのか、といった側面をも考慮することが重要であり、多面的な環境改善施策の評価が必要となってきます。環境システム研究室では、人間活動の様々な側面を取り上げ、工学的な視点や手法の適用に留まらず、社会学、経済学との融合を図り、持続可能な社会を形成していくための礎となる研究を進めています。

環境システム研究室 / Environmental Systems	
	花木 啓祐 教授 HANAKI Keisuke 工学系研究科都市工学専攻
専門	都市の環境の解析、 物質フロー解析、温暖化対策
担当科目	地球環境工学、環境システム解析
さまざまな技術や社会条件を包み込み、新しい社会、地域、地球の姿を模索して提案するのが都市環境工学です。みなさんの教智をお待ちしています。	
	栗栖 聖 講師 KURISU Kiyoko 先端科学技術研究センター
専門	環境配慮行動、低炭素都市、 リスクコミュニケーション
担当科目	環境システム解析、都市工学数理、 都市工学演習B 第一・第二
環境工学という分野は、社会や人にきわめて近い立ち位置で、工学を扱える学問です。実際の社会を相手にする分、複雑な事象を扱うことにもなりますが、やりがいも大きいでしょう。	

■都市水システム研究室

都市の過密化や生活質の向上により、水利用の効率化と水供給システムの高度化が求められています。一方、都市活動による水源水質の悪化、汚染物質の多様化、気候変動による降雨の偏在化などへの対応も望まれています。当研究室では、水質汚染の実態調査と機構解明、新しい浄水処理技術の開発、水管理や水供給の在り方に関する検討などの取り組みを通じて、より魅力的な水環境を創出し、安定した水供給を実現することを目指し、幅広い研究を行っています。

都市水システム研究室 / Urban Water Systems



滝沢 智 教授
TAKIZAWA Satoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市水システム、
都市域の地下水管理、浄水技術

担当科目 環境反応論、都市工学数値演習Ⅱ

安全・安心な生活を支える基盤として、また国際協力や水ビジネスとして注目を集めている都市の水システムを、技術と経営面から研究しています。



小熊 久美子 講師
OGUMA Kumiko
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市水システム、浄水技術、
環境微生物工学

担当科目 環境水質化学、水質変換工学、都市工学演習B 第二

身近な存在の水ですが、実は知れば知るほど未知の事柄が多く、その奥深さに日々ワクワクさせています。「水」をキーワードに学問の面白さを体感したい方、大歓迎です。



村上 道夫 特任講師
MURAKAMI Michio
環境プロジェクト機構
「水の知」(サントリー) 総研青村職産

専門 環境化学分析、
都市水環境システム、リスク評価

担当科目 水環境学、環境工学実験演習第一・第二、
都市工学演習B 第二

健康で文化的でいきいきとした水環境のある潤いのある都市をつくりたい。人間社会と自然環境の交互作用を解明したい。そのような志を持った方、私たちと一緒に追求しませんか。



酒井 宏治 特任助教
SAKAI Hiroshi
グローバルCOEプログラム
都市環境の持続再生学の展開

専門 紫外線水処理、消毒副生成物、
都市持続再生

担当科目 環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習B 第二

水道の蛇口から出てくる透明な水の中に、何が入っているか、考えてみたことはありますか？上水道という身近なインフラを支える科学を都市工学で学んでください。

■都市資源管理研究室

今日の環境問題では、都市に住む人々の健康や生活環境への影響だけではなく、都市と地球規模の環境問題とのかかわりを含めた、より広い視野が必要とされます。こうした社会的要請に科学的に貢献するために、「物質フロー・ストック分析」や「産業連関分析」「ライフサイクル評価」といった手法を使って、東日本大震災にともなう災害廃棄物処理といった喫緊の課題やPETボトルのリサイクルのような身近な課題から、日本の生産・消費全体での資源・エネルギー需要や環境負荷発生 of 構造分析まで、幅広い環境問題にアプローチしています。

都市資源管理研究室 / Urban Resource Management



森口 祐一 教授

MORIGUCHI Yuichi

工学系研究科都市工学専攻

専門 物質フロー分析、ライフサイクルアセスメント、廃棄物処理・リサイクルシステム

担当
科目

都市環境概論、廃棄物資源循環学、大気環境学

「木を見て森を見ず」に陥らない幅広い視野と問題を深く掘り下げる洞察力の両方を身につけ、実社会の現場で起きている環境問題の解決への貢献を志す皆さんを待っています。



中谷 隼 助教

NAKATANI Jun

工学系研究科都市工学専攻

専門 ライフサイクル評価、消費行動分析、リサイクル

担当
科目

環境計画基礎演習、都市工学演習B 第三

環境問題の解決のためには、科学技術だけではなく、それを最大限に活用する社会システムが必要です。私たちと一緒に、環境に優しい社会システムについて考えてみませんか？

水環境制御研究室

水環境制御研究室では、都市水環境の制御に関わる多様かつ複合的な課題の解決に取り組んでいます。個々の問題は相互に関連しており、それらが都市に特有の水循環系の中でどのような位置付けにあるのかを総合的に理解することが重要です。研究項目は、(1)都市における雨天時汚濁流出と水循環の解析、(2)都市水循環系における病原微生物の挙動解析と制御、(3)土壌・地下水のバイオレメディエーション、(4)上・下水の生物学的水処理プロセスにおける微生物群集と機能の解析、など多岐にわたっており、研究を通して多角的な視点を醸成することを目指しています。

水環境制御研究室 / Water Environment Technology



古米 弘明 教授
FURUMAI Hiroaki
水環境制御研究センター

専門 都市雨水管理下水システム、水環境保全

担当科目 水環境学、都市環境概論、上下水道システム

魅力的な研究を行うには、センスや知識が必要ですが、粘り強く、目標に向かって努力できる情熱と「なぜかな」という好奇心も大事だと思います。



村上 孝雄 客員教授
Murakami Takao
日本下水道事業団

専門 下水道、水処理技術、資源エネルギー利用技術

担当科目 地球環境工学、環境システム解析

良好な環境があって、初めて幸福な社会があります。自分の周りの身近な環境から地球環境まで、都市工学科都市環境工学コースで学びましょう。



片山 浩之 准教授
KATAYAMA Hiroyuki
工学系研究科都市工学専攻

専門 水質衛生工学、上水道工学、環境微生物工学

担当科目 環境流体力学、環境公衆衛生、上下水道システム、都市工学演習B第三

都市環境工学は、これまでに学んだほとんどの科目の知識が役に立ちます。君たちの頭脳に蓄積された努力の成果を、ぜひ都市環境工学コースでフル活用してください。



栗栖 太 准教授
KURISU Futoshi
水環境制御研究センター

専門 環境汚染の微生物浄化、廃水の再生利用、環境微生物の機能解析

担当科目 環境微生物工学、都市工学演習B第一、環境計画基礎演習

環境中の微生物の働きは、まだまだ未知の世界です。環境浄化や保全にかかわる微生物の機能を知り、能力を引き出すための研究はとてもやりがいがあります。



春日 郁朗 助教
KASUGA Ikuro
工学系研究科都市工学専攻

専門 生物学的水処理、高度浄水処理、環境微生物工学

担当科目 生物学的水処理、高度浄水処理、環境微生物工学

都市環境工学は、社会とそこに住む人をじっくりと見つめ、語りかける学問です。良いカウンセラーになるためのノウハウと一緒に学びましょう。

■環境質リスク管理研究室

人間活動に起因する環境質（水質、大気質、土壌質）の劣化がもたらす様々なリスクを総合的に管理するためには、全体を俯瞰して把握する総合化能力とともに、リスクを正しく評価し、リスクを合理的に低減する技術開発が必須です。当研究室では、有害化学物質の無害化処理技術の開発、汚染土壌・底質の生態影響評価と浄化技術開発、固形廃棄物の統合的管理システムの評価とエネルギー回収技術開発などに取り組んでいます。また、大規模な都市下水処理場のコンパクト化や、分散型の小規模施設における排水と廃棄物の同時処理とエネルギー回収の実現などに寄与する次世代メンブレンバイオリアクターの開発を進めています。

環境質リスク管理研究室 / Environmental Risk Management and Quality Control Technology



山本 和夫 教授
YAMAMOTO Kazuo
環境安全研究センター

専門

メンブレンバイオリアクター、資源土
産型水処理、環境質リスク低減技術

担当
科目

環境流体力学、廃棄物資源循環学

遍在かつ偏在する都市。多様な人、もの、環境。
都市環境のグローバル性と地域性。全体と部分を
絶妙なバランスでつむぎ交ぜる、都市環境工学
に來れば味わえるでしょう。



福士 謙介 准教授
FUKUSHI Kensuke
サステナビリティ学連携研究機構

専門

国際環境、健康リスク

担当
科目

環境公衆衛生、都市工学演習 B 第三、
都市工学数理演習 I

日本で最初の都市工学科で世界のみんなの役に立
つ世界最先端レベルの研究を一緒にしませんか。
君たちが本気で学べる環境を提供しましょう。



中島 典之 准教授
NAKAJIMA Fumiyuki
環境安全研究センター

専門

生態毒性学、都市雨水管理、
環境水質化学

担当
科目

環境水質化学、都市工学演習 B 第二

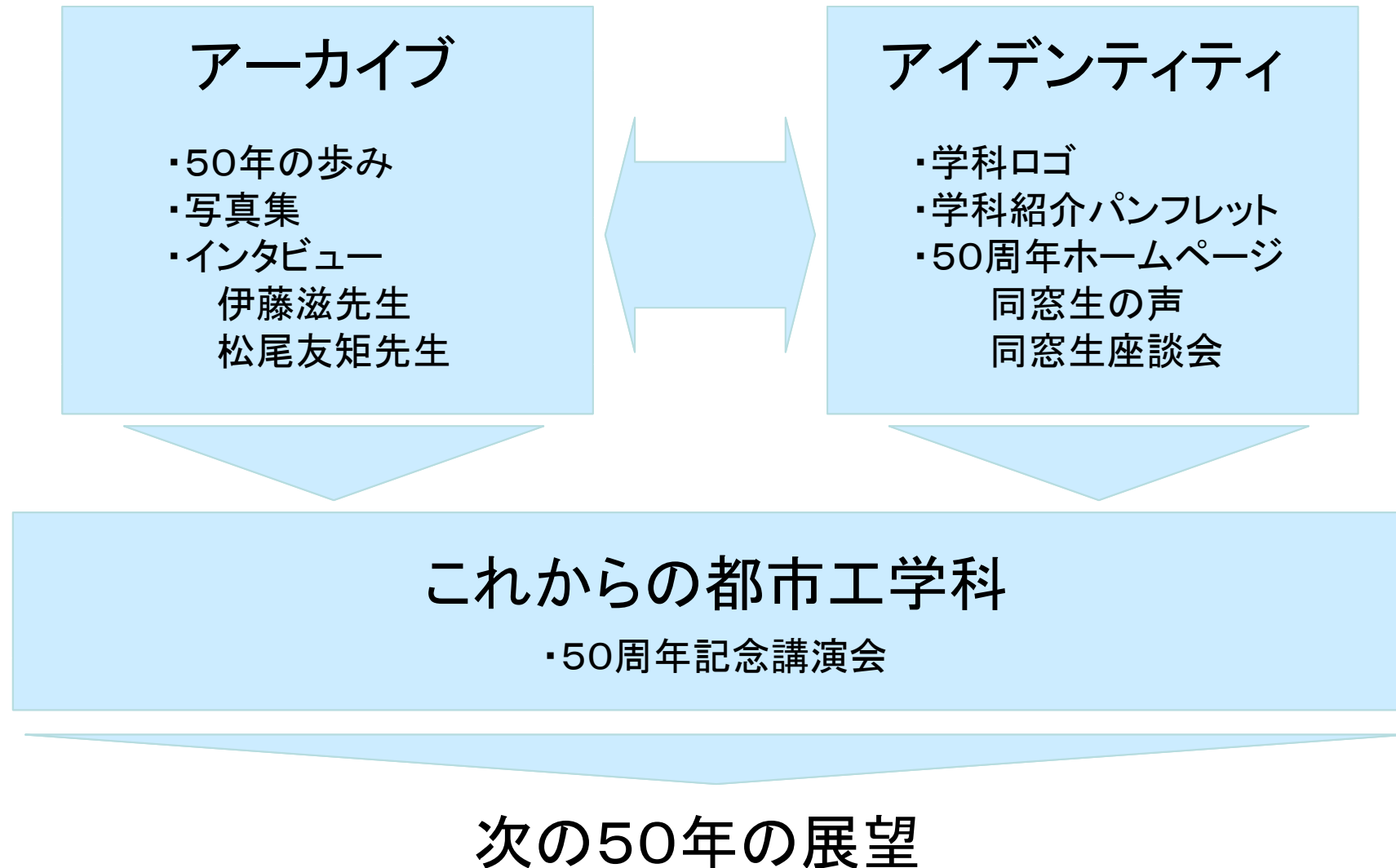
環境管理には、個別の環境対策技術を極める人、
全体を見渡して評価する人、両方が必要です。興
味の多様な皆さんとの共同作業が楽しみです。

■環境微生物機能研究室

下水処理は微生物の力により行なわれますが、その微生物の正体さえ十分にわかっていません。当研究室の主なテーマの一つは、最新の技術である次世代型シーケンサーの力を借りつつ、下水処理場の微生物世界を明らかにすることです。また、もう一つのテーマは、微生物の生理生態についての知見を活用し、下水処理の性能を高めることです。例えば私たちが胃袋の中に食べたものを一時的に蓄えるように、微生物の中には下水中の有機物を細胞内にPHAという物質として一時的に貯蔵するものがあります。微生物による有機物の一時的貯蔵現象が、実は、リンの除去や窒素の除去、あるいは処理にかかるエネルギー効率の改善など、処理の効率を改善するための重要な鍵となります。さらに、処理技術だけでなく、下水道全体を総合的に捉え、持続可能性の高い下水道システムを構築するための研究を行っています。

環境微生物機能研究室 / Environmental Microbial Functions	
	味 埜 俊 教授 MINO Takashi 新領域創成科学研究科環境学研究系
担当科目	水環境学、環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習B第二
専門	サステイナビリティ教育、社会の多様性とサステイナビリティ、技術システムのサステイナビリティ評価、排水処理プロセスのモデル化
ググる前に考えよ。情報を探すばかりで作る人がいなくなってしまう社会は立ち行かなくなります。都市工学科で新しい価値を創造するセンスを身につけてください。	
	佐藤 弘泰 准教授 SATOH Hiroyasu 新領域創成科学研究科環境学研究系
担当科目	環境微生物工学、応用水理学、水理・構造力学演習
専門	紫外線水処理、消毒副生成物、都市持続再生
下水処理場の微生物世界をのぞいてみませんか？高速シーケンシング法など最新の手法を用いて、見えざる生態系を解き明かし、環境浄化に役立てましょう。	

創立50周年記念事業コンセプト



記念式典HPの開設

東京大学工学部都市工学科創立 50 周年記念式典

CONTENTS

プログラム

東京大学へのアクセス

会場へのアクセス(弥生講堂)

伊藤滋先生インタビュー

思い出スライドショー写真募集

都市工学科50周年 卒業生の声 寄稿募集

NEWS

<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/ue50/>

「東京大学都市工学科50周年記念式典・記念講演会」

東京大学工学部都市工学科は、都市問題及び環境問題が大きな社会的課題として広く認識されるようになった1962年に創立され、この間、約2200名の卒業生を送り出してまいりました。

本年は、学会設立50周年にあたります。本学科では、記念式典ならびに記念講演会を開催し、都市工学科創立からのあゆみを振り返るとともに、まちづくり、防災、地球環境問題、途上国の都市・環境問題等、新たな課題の山積する今日の社会の中で、これからの都市工学の果たすべき役割と方向性を 探りたいと考えております。

日時・会場

日時: 2012年11月1日(木) 13:30~20:00

会場: 記念式典・記念講演会: 東京大学弥生講堂一条ホール

記念祝賀会: 東京大学弥生講堂アネックス

伊藤滋先生インタビュー

(2012年10月2日)

都市工創設時の理念とその後の展開、今後への期待についてお聞きしました。

聞き手（文責）：城所哲夫、大森宣暁



- 都市工学科創設時の理念はどのように生まれたのでしょうか？

なぜ、都市工学科が出来たのかというのは、昭和30年頃からの日本の変わりようというのが鍵になっているので、そのあたりから話をはじめたいと思います。

松尾友矩先生インタビュー

(2012年10月11日)

都市工学科創設時の理念とその後の展開、
今後への期待についてお聞きしました。

聞き手（文責）：古米弘明、栗栖聖

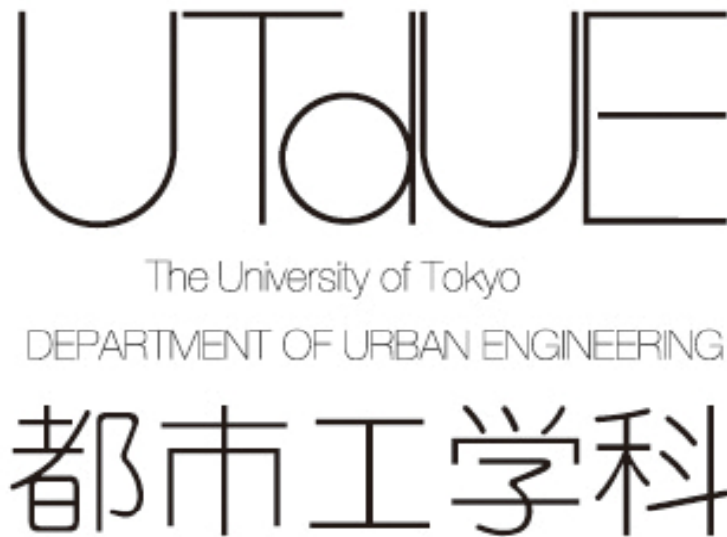
- 都市工創設当時の都市計画と衛生工学を一緒にして
建設系三学科目として設立した際の経緯、その頃の学科
の雰囲気は、どのようなものでしたか？



私が助手になったのは、昭和41年で、ドクター1年の時にドクターを中退して助手になりました。ですから、創設の頃と比べるとちょっと後になるから、経緯についてはあまり良くわかってはいないのですが。

都市工学科のロゴ

検討案



- ・学科としての一つのまとまりであることを表す
- ・ロゴが目立ちすぎず、さりげないものにする
- ・50周年としての「新しさ」と「蓄積」を両方表す

Engineering, the University of Tokyo
工学系研究科
都市工学専攻
工学部
都市工学科

Urban Planning Course
都市計画コース
Urban Environmental Engineering Course
都市環境工学コース

Laboratories,
Urban Environmental Engineering Course
研究室紹介 都市環境工学コース

都市環境工学とは、安全かつ快適な都市環境を創出する学問です。大気・水・土壌・騒音・廃棄物・エネルギー・気候変動など、都市環境の多岐にわたる分野で、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

環境システム研究室

持続可能な社会の実現のための都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

グローバルな活動の成果 留学 国際会議

都市工学科では、共同研究や国際協力活動だけではなく、学生による海外調査や共同ワークショップなどもよく行われています。社会とのつながりも非常に強く、学生は多くの国際会議やワークショップに参加しています。都市工学科の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市工学科の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市工学科の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市工学科の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

主な教授陣



大田 孝 都市計画コース

都市計画コースでは、時代とともに変化する都市の状況と課題に直面して、工学技術にその基礎を置きつつ、社会科学・人文科学の研究アプローチも活用しながら、多角的視点から研究を進めています。都市や都市を取り巻く自然環境を含め、人間が生きていく生活空間を、どう作り、維持管理・改善していくのか、国土全体としての空間や都市そのものに関する問題を幅広く検討し、都市の発展と持続可能性を追求します。都市の発展と持続可能性を追求します。

都市計画研究室

都市や都市を取り巻く自然環境を含め、人間が生きていく生活空間を、どう作り、維持管理・改善していくのか、国土全体としての空間や都市そのものに関する問題を幅広く検討し、都市の発展と持続可能性を追求します。



主な教授陣



大田 孝 都市環境工学コース

水環境形成研究室

水環境形成研究室では、都市と水環境の形成に関する研究を進めています。都市と水環境の形成に関する研究を進めています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市文芸研究室

都市文芸研究室では、都市と文芸の形成に関する研究を進めています。都市と文芸の形成に関する研究を進めています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市デザイン研究室

都市デザイン研究室では、都市とデザインの形成に関する研究を進めています。都市とデザインの形成に関する研究を進めています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学 卒業生

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



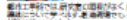
都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。



都市環境工学の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

大学院工学系研究科 都市工学専攻

都市工学専攻では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市工学専攻では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

都市計画 卒業生

都市計画の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。都市計画の分野では、都市環境の改善と持続可能な都市の発展を目指しています。

「卒業生の声」

都市工学科50周年 卒業生の声

(3回生) 石川忠男

(3回生) 澤井安勇

(6回生) 前田正博

(6回生) 室井 明

澤井安勇 (3回生)

都市工学科が創設されて50年の大きな節目を迎えることとなった。今年2月の同窓会45周年記念総会を同窓会長として迎えた時にも感じたことであるが、昨今、かつて学生時代にお世話になった教職員の方々や、同じ時代を共に生きてきた多くの友人・同窓生の姿がいつの間にか見えなくなり、気がつくと、元気で頼もしげな、しかしどこことなく世代間ギャップを感じる後輩達の姿が目に入る機会が多くなった。改めて、半世紀という時の流れの大きさ、重みを感じている今日この頃である。ところで、これまでの都市工卒業生の就職先(大学関係を除く)をみると、官公庁・公益団体等32%、コンサルタント等16%、建設・不動産15%、商業・サービス等13%、金融・保険11%、運輸等9%などとなっており、官公庁・公益団体等もほぼすべての省庁及びその関係機関・団体をカバーしていることを考慮すれば、フィジカル、ノンフィジカルに関わらず極めて幅広い社会分野に進出していることが特徴となっている。政治・経済・社会のあらゆる機能が重層的に絡み合っている現代都市のガバナンスは、そうした都市機能の各パーツを担っている多様なアクター(ステイクホルダー)達のネットワーク関係で成り立っていることを思いおこせば、都市工同窓生の現状は、正に現代の都市ガバナンスを支えるマルチ・ステイクホルダー関係の縮図と言えるかもしれない。願わくば、今後とも都市工学



**寄稿方法は50周年記念事業のページをご覧ください。
来年1/11まで募集します。**

記念品「鮫皮名刺入れ」（シャーク@気仙沼）



- 独特の革の凹凸があり、傷もつきにくく、使う程に柔らかさと艶が増す
- 水に強く、高い強度を兼ね備えた希少な天然素材

4,000円/個

都市工学科ロゴ入り

『シャークス』は津波で壊滅した気仙沼市南町地区に、
2011年12月24日オープンした仮設商店街
「[気仙沼復興商店街－南町紫市場](#)」に店舗を構える

都市工学科創立50周年記念式典 2012年11月1日

お静聴ありがとうございました。

今後とも学科へのご支援を
よろしくお願い申し上げます。



Department of Urban
Engineering, the University of Tokyo
東京大学大学院

東京大学



東京大学都市工学科創立50周年記念事業 から

松尾友矩先生インタビュー



(2012 年 10 月 11 日)

都市工創設以降の環境系での活動と、今後への期待についてお聞きました。

聞き手(文責): 栗栖聖、古米弘明

都市工創設当時の都市計画と衛生工学を一緒にして建設系の学科として設立した際の経緯、その頃の学科の雰囲気等

私が助手になったのは、1966 年 4 月で、博士課程 1 年の時に中退して助手になりました。ですから、創設の頃と比べるとちょっと後になるから、経緯についてはあまり良くわかってはいないのですが。

京都大学と北海道大学に、時代の関係は明確ではないのですが、戦後のアメリカ軍の意向を受けて衛生工学科が出来て、東大にも当然必要だろうということが背景にあったのだと思います。最初文部省の計画では、京大、北大に続いて衛生工学科を作ろうという意向があったらしいのですが、そこに、建築系の高山(英華)先生、丹下(健三)先生という大物がいて、新しい概念で、都市工学とか都市計画で東大は打って出るべきだということを言って、その声の方が強くなった。だからそういう意味では、京大や北大に比べて、東大での衛生工学の分野は小さめになってしまった。出発点が非常に限られた分野しか持たない衛生工学になってしまった、というのがあったと思うんですね。他は、水だけじゃなくて大気関係とか保健衛生関係も最初から衛生工学の方に入っていた。当初の意向としてはその方がサニタリー・エンジニアリングの形としてあるべき姿だと思っていたのではないかなと思うんですけどね。それが事情は分からないけれど、東大の工学部から学科新設を出す時には、都市工学科で出ることになったと。衛生工学だけで 4 コースにするかというところではなくて、交通計画も入ってきていたということですね。そういう意味では、学内政治の関係でこのような構成が決まったと思いますが、真実のところは不明ですね。環境衛生の分野から言えば、小さい規模でのスタートでした。

— 最初のスタートのころから、3 つの講座だったのですか？

最初に徳平(淳)先生が、土木から移られて第二講座が出来たのかな。それから石橋(多聞)先生が、厚生省から来られて、第一講座で水道をやると。徳平先生が下水道をやると。それから杉木(昭典)先生が、国交省、昔の建設省だけど、そこで特に隅田川の汚染問題などをやっていたので水質汚濁、産業排水といった分野を第三講座がやる、というので始まったんですね。

— 最初の先生方を選ばれた経緯はご存知ですか。

それは、私は全く知らない世界ですね。衛生工学という分野は、どちらかというと役所が実務をやっていたところがあって、役所から人を呼んでこようと言うのがあったのだと思います。水道分野でも大学での人材自体が非常に数がまだ少ない時代でしたね。水道はいくらかいたかもしれないけど、下水なんてまだ役所にも下水道課とか専門の分野がなかった。下水道協会が出来たのが 1964 年だから、この頃はまだ下水道協会もなかった時代で、水道協会のなかに下水道部会みたいなのがあった。水道研究発表会にいて下水道の話をしたり、土木学会のなかでも、水道の方が主役で。まだまだ小さい分野でしたね。世の中的にもまだ下水道普及率は低い状態でね、この頃は 1 ケタ台かもしれないですね。そういう意味では非常に下水は遅れていた。けども、下水道は必要だというのが背景にはあったと思うんですね。

— この頃来られた先生方は、卒業して 15 年くらいで教授として講座を持つようになったということですね。

そうなりますかね。民間の水処理会社も小規模でしたし経験の蓄積が少ない時代でしたからね。

— この頃の最初のカリキュラムや、環境系でこういう授業をやっていくんだというのを決められた経緯はご存知でしょうか。

それも私は直接には関わってないんだけど、やはり、土木の水系だというのは一つ大きな要素であって、公務員試験の土木職を受けさせようという意図はあったと思う。

衛生工学職というのが議論されたこともあったようですが、結局厚生省や建設省の中では、造園とか、活躍出来る場所の狭くなる専門職は避ける方がいいという判断であったと思われますね。そういう意味では、土木職で広い土木の中でやれる方が本人にとってはいいんじゃないかということで、土木職の試験を受けられるようなカリキュラムに、というのがベースになっている。材料力学や構造力学、コンクリートだとかね、土木の方の科目も取りながらやると。少なくとも、水理学は都市工で自前でやろうっていうのがありましたね。

— 今、基礎流体力学を社会基盤の方で一緒にやろうと去年くらいからなってますね。

それは、趣旨からいくと良くない。そうやっていくと、結局専門の基礎知識が無くなってしまう。都市工の学生さんたちの自信までなくさせてしまうことが心配ですね。教える方の負担は大きいかもしれませんが、それを嫌がっているとすれば問題ですね。研究テーマは当然に広がり変化するでしょうが、流体運動にかかわる基礎知識は当然に必要ですし、守っていった欲しいところですね。そういう意味では、大気汚染とかね、今は水だけじゃない環境分野があって、そういうところで流体力学の問題はあるわけだから。それを上手く反映して教科書に作れば、他の環境系の学科でも使ってもらえる。

流体力学を教えるに当たっては、基礎をちゃんと教えようとするところだけでも結構時間を取られるところがあって、なかなか応用まではいかなかったところもあるけれど、一つの専門基礎として必要だと思いますけどね。今はどうなっているのかわからないけれど、公務員試験で専門として水理学と材料力学とコンクリートの内、どれかは取らないといけないなら、その中でも少なくとも水理は自前でやって、都市工卒でも水理は専門として受けられるようにしておこうと。コンクリートなんかはね、土木と一緒にやって。そういう意味では、一つのアイデンティティを求めてやっていた。

— 最初の頃から普通の授業の他に演習もあったんですか。

演習は最初の頃は計画コースと一緒にやっていたね。団地の計画とかをやる時は、衛生施設、今でいう環境施設については、環境系の学生が担当していた。僕らも団地の計画に参加してやりましたね。ちょうど団地が一番盛んな頃で、住宅公団のあっちこっちの団地で、どういう施設を組み合わせで、どこに配置して、どんな建物を建てて、っていうのをやってた。だからね、僕らは最初のころは、計画コースの学生さんのこともよく名前を覚えてた。

— それは例えば班作業の時には計画系と環境系の学生と一緒に混ぜてやっていたということですか。

最初の頃は、都市工学科一本で 50 人採ってましたからね。駒場から来る時に。来てから希望に応じて分かれることになった。なので、演習も一緒にやりましたね。だけど、それが次第に、なんというのかな、環境の人たちがつつい計画の方へ行きたがるようになってきて(笑)。計画のことをやりたいっていうのが増えてきて、卒論で計画系に移るとかね。そういうのが出てきて、ちょっとあまりにも混乱する形があった。我々としては、専門分野を社会的に守っていくというか、維持していく責任があるから、若干自衛策として、進学振り分けのときに 18 人を分けて、最初か

ら環境系(衛生工学コース)として採るスタイルにしようということになった。

— 何年くらいで変えられたんですかね。62年に設立されて、数年でそういう形になったんでしょうか。

2、3年で変わってるかもね。かなり早かったですね。

— 最初の頃は実験はなかったんですか。

いや、あった。環境系の学生だけやっていましたね。実験は宇井(純)先生が、とにかく試験管の洗い方から蒸発皿の測り方まで実験の基礎から教えてた(笑)。そういう意味では、実験は絶対無しにはできないというのがあったね。

— 計画系と演習を一緒にやっていた頃から、環境系だけになった時にどんな内容の演習になったんですか。

流域環境計画が中心であった。班ごとに川を選んでもらって。荒川とかね。その流域の市町村等を選んで環境計画を立てる。人口を推定したり、どこで水源を得て街に配水し、下水をどこへ集めて下水処理場を建てたらいいのかとか、ゴミ焼却場はどうしたらいいのかとかね、地図を見ながら実際の地域の問題を考える。そういう題材を選んでやってた。現地も見に行くし、話も聞きに行くし、選んだ町のね、地域、あるいは都市の環境計画を作ると。そのなかに、土地利用なんかも出てきて、そういう意味では、ある程度、見様見真似で都市計画的なものの中に入れながら、一方で、川の流れて自浄作用が進むとかいう水質の問題などを核に据えてやっていたね。基本的に、地域の広がりを持ちながら環境問題を取り上げて、しかも、実践的な要素を入れながら演習を組んでましたね。

69年頃の大学紛争の思い出

色々ね、個人的な思い出も強いんだけどね。都市工は、一番工学部の中では、東大の中でもね、先鋭的な人達だったから。色々事情はあったんだけど、都市工は一気に火が付いた。激しいのに巻き込まれて、大学自体が悪いとかね、造反有利とか、まさに紅衛兵のね。一気にその方向にいった、燃え盛ってしまった。8号館や安田講堂が封鎖されたりとかね。個人的には中の学生さん達とは以前から話はしていたんだけど、立場上、教員になりたてで、ファカルティメンバーの中でも一番若かったから。徹夜で団交をやったりとか。立てこもっちゃって、安田講堂に残った学生もいるわけ。そういうのと、上手く出てその後役所に入って偉くなっちゃった人もいたりとか。精神的にプレッシャーを受けてその後うまくいかなかった人もいたりして。まあいろんなことがあった。今いるシニアな教授にしたって、その影響を受けてきている。そういう時代でしたね。全学的には学生の動きは治まりかけたころに、全共闘の山本義隆とか有名な人物が都市工学の問題にもかかわってきたりして、職員問題とかね、色んなのが重なったもんだから結構長引いて、都市工だけは騒ぎが続いたという時期がありましたね。

— 学科の雰囲気的には、その頃はこういった感じでしたか。

よくないですよ。居残りする学生さんたちを毎晩追い出して、建物に残しちゃいけないんっていうんでね。パトカー呼んだりとかね。今は平和なもんでしょう(笑)。

— 噴出するほどのエネルギーがあった時代という気もしますが。

世の中自体に活気があった。就職とかには困らなかったんだよね。なんか生活出来るっていう。今は、フリーター

などと言って就職しないし人もいるけど。あの頃は、都市工出て、自分で会社を作るとかいるわけですよ。起業家で一人でも始められるし、それなりの仕事があったんだね、不思議なことに活力はありましたね。

— どういう分野にいかれた方が多かったんですか。

やっぱりコンサルタント的な仕事が多かったですかね。建築系の人は、事務所をやったりとか。建築の方が需要はあったから。あとは、省庁もいたけど、やっぱり一番目立っていたのは商社とか銀行とか。あの頃は、理系の文系就職が流行りだした頃だからね。向こうが喜んで採った。

— 採用する方は、都市工的センスを期待してということですか。

一応、海外での仕事も増えそうだってこともあったんだろうね。商社とかも今の水ビジネスとかじゃなく、もっと物とかを扱う職種に就職していた。あとは特例かもしれないけど保険屋さんへの就職もあったね。リスクの計算が必要とあったことから、そういう点で理系を選ぶようなことがあった。そういう意味じゃ理系ってことで期待されていたのかもしれないね。他の学科の機械とか電気とかでは、非常にオーソドックスに自動車メーカーとか機械メーカーとかにいったけど。ソフトなところに来てくれる理系の学生ってのは都市工の学生だったのかもしれないね。しかし、そのすぐ後では、機械や電気の人たちも文系就職をするようになりましたね。都市工は先端を行ってたのかも。

— 大学院に進む学生さんは、どれくらいいたんですか。

大学院は、それなりに何人かはいて。確実に修士までは行って、博士も3人か4人は行ってたんじゃないかな。紛争後の最初の大学院生は花木(啓祐)先生の代の前後の人達ですね。花木さんとすでに故人ですが海野(英明)さん、その前年に茨城大学の三村(信男)さん、筑波大学の福島(武彦)さん、山梨大学の平山(公明)さん、学部は京大から来た元水道課長の山村(尊房)さん達がいて、このあたりの4、5人が核になって大学院が本格的に始まったんですね。夏休みの大学院合宿が始まったのもこのころですね。それからは、それなりにドクターも何人も、修士もそれなりにいましたね。

— この頃は卒業研究とかは、どんな感じのことをやってたんですか。

卒業研究はね、そんなに変わんないと思うけどね。結構水処理の実験をやってくれた人はいたと思うし、悪臭を発生しながらコンポストに実験をしていましたね。その頃は、藤田(賢二)先生が来られて、第一講座で水道をやられて、第二講座は、教授がいなかった時期で、市川(新)先生が助教授で。私は、第三講座で。教授になったのが1982年でしたね。

留学生特別コースのスタートについて

— 大学院での話にはなりますが、留学生特別コースがスタートする90年前後までは、留学生はいなかったのですか。

留学生はね、非常にポツポツと。韓国の朴先生っていうのが、結構有名な人なんだけど、ソウル大学からこっちに来て。ちょうど紛争中に実験やって、博士を取って帰ってソウル大学の教授になっていました。台湾の欧陽先生が来ていたりとか。今では、朴先生は韓国の学士院会員に選ばれてますし、欧陽先生は台湾では環境関係の著名な大御所となっておりますね。

— 体系的に留学生が来出したのは、90年の特別コースが出来てからですか。

85 年ぐらいからは先ほどの話のようにほぼ体系的になってはきていましたが、留学生を受け入れる特別コースは 90 年からだと思います。土木が、文科省から特別の奨学金を貰って、英語で講義をやるっていうのを始めてた。じゃあ都市でもやろうじゃないかということで、年間 3 人かな。計画系は英語で講義をするのはやらないって言って、環境だけでまずは 3 名取ろうと。

他の学科でもやりたいっていうのはあったんだけど、結局実現していなかった。僕はだから本部庁舎の留学生課に、直接頼みに行ったりとか、文科省に説明に行ったりとかしたね。留学生を採る先に関しては、AIT (アジア工科大学) から赴任して帰ってきた教員陣もいたから、AIT の学生をまずはドクターで入れようと。それが始まりだよな。

— AIT への赴任は、一番最初はどうなただったんですか。始まった経緯は。

最初は北大関係で渡辺(義公)先生が行っておられましたね。次は東北大学の大村(達夫)先生が行っていますね。松本純一郎先生が、長い間第二講座の教授を東北大学と兼担でやられていて、AIT に人を出さないかって言うので、じゃあ東大でもやりましょうと。その頃、私もちょうどアメリカから帰ってきた所で、次の年に AIT を見に行ったりしましたね。その上で、大村先生の次は大垣(眞一郎)先生(現 国立環境研究所理事長)に行っておうかって。その頃大垣先生はすでに助教授になっていた。その辺からは、綱渡りで。次から次へと(笑)。AIT に出ないとダメだ、助教授になったら行かないといけないうって言って。それで、かなり経験した人が増えてきたんで、特別コースも出来るだろうって。英語コースをね、始めて。それ以来、先生になるには英語が出来ないといけないうって雰囲気にはなったと思う。

— 設立当初から、留学生もいたとのことですが、授業は英語でしていたんですか。

それはもう、全然やってない。最初のころはね、日本語だけ。相手も日本語が出来る人しか来ないから。皆さんそうだったね。

— 留学生特別コースが出来たところから、授業のほうも英語で提供し始めたということですよな。

そう。特別コースは英語でやるということでしたな。研究会も英語で発表して彼らは英語で私らと話して私らの前では一切日本語は使わなかったけど、学生同士はね、留学生の方が先に日本語が上手になる感じでしたな。

— 教員とのミーティングとかでは日本語を使わないけど、みんなでしゃべる時は結構日本語でしゃべって。

そうそう。結構上手なんですよ、彼らは(笑)。この頃から、日本人の学生さんたちからも英語の論文が増え始めるね。研究成果も英語で発表するようになってきて。そういう意味じゃ、国際化が非常に進んだと思うけどな。

— 特別コースが始まったところに、苦労されたことはありますか。

それはやっぱりね、日本語を教える仕組みを考えるのが大変だった。土木の日本語教室に入れてもらおうともしたけど、土木の学生だけでいっぱいですと言われて、こちらもそれに対応するようにしないといけないうからな。この頃から味塾先生の奥さんが手伝ってくれたりしていましたね。

— 日本語教室は今は都市工にありますけど、そのころはまだ出来てなかったんですか。

あの頃はね、まだしっかりは出来てなかった。それで、日本人の学生を付けて、お店とかにも一緒に行ってもらったり、送り迎えなんかもね、暫くはチューターの学生がやっていた。成田に迎えに行ったりとか。

— 成田には今もチューターの学生さんが迎えに行ったり、手続きを色々手伝ったりとかしてますね。

そのころは、まだ非常に不完全な状態で皆さんに迷惑かけたかもしれないね。

— 最初のころは、どこの国の学生さんが多かったんですか。韓国とかですか。

そうね、韓国とかね。韓国は特別プログラムとは別にね、いたんだ。金さんとか黄さんとかね。

— 黄さんはいっぱいおられますよね(笑)。

そうそう。私の知っている黄さんは仁川(インチョン)大学の先生になっていますね。その他かなりの学生さんがいましたね。それぞれ、韓国の大学で頑張っていると聞いています。その人たちは、日本語を習ってきた韓国の人たちで、英語よりは日本語が得意ってような人たちでしたね。

— 向こうで既に習ってきて、ミーティングも全て日本語ですよ。

そうそう。だから私の日本語が一番分かりにくいなどと言われたこともあります(笑)。

— (笑)。韓国以外はどここの国の学生さんが多かったですか。

韓国以外は、AIT の英語コースの人がずっといましたね。これはもう、色んな国の人が出て。ペルーの人が来たりとかね。リエガさんとかね。彼は、ちょうどペルーの日本大使館が占拠された時に、大使館の中にいて被害者だった。だけど彼は先に出されて、バスに乗る映像に彼が映ってた(笑)。今どうしてるかな。

— この頃って、大学院生は全部でどのくらいいたんですか。30 人とか。

どうだろうね。修士も入れれば、そうかもね。日本人院生の枠が教授1人に学生2人くらいでしょ。留学生は別枠だったから、それくらいはいたと思うよ。そのうち留学生が半分くらいはいたんじゃないかな。

— 今でも留学生は半分くらいです。今環境系全体で大学院生が70人くらいいて、その半分くらい留学生ですね。

多いね。それはどういう奨学金で来てるの。

— いろいろですね。日中韓での奨学金で来ている中国の学生さんもいますし、もちろんこの特別プログラムで来ている学生さんも。私費で来ている学生さんもいますし、あとは企業とかパナソニックとかの奨学金で来ている学生さんもいますし。結構いろいろですね。特別プログラム以外の留学生が来る枠組みが増えたかもしれないですね。

ああ、そうだね。あと ADB(アジア開発銀行)からも採るっていうのがあったんだな。私のいた最後の方でね。

— この頃は ADB の奨学金はまだなかったんですか。

まだなかった。それは、僕が辞めるころじゃないかな。もうちょっと前くらいかな、やったらどうかっていう話はあったんだよね。

先端研、環境安全センターについて

— 先端研に最初に行かれたのはどなたですか。

先端研については、経過が少し複雑で先端研の前にあった境界領域研究センター(名前は不正確かもしれませんが)からの経過があるのですが、都市工からでいえば、伊藤滋先生が最初だったと思います。しかし、先端研で大学院担当することになるあたりの最初が花木先生だったのだと思います。縁の薄かったセンターに都市工関係のポストをつくるということは、かなりの荒業だった。こう何もないところに、いきなりゼロから作ったからね。私が工学部の研究組織委員会にかかわっていたことも役だったようには思いますが。環境系と計画系で教授と助教授を襻掛けで、入れ替えるっていうのを考えたりして。今の運営はどうなのでしょうかね。

— 環境安全センターの方はいかがですか。

環境安全センターは、僕がセンターの運営委員か何かになっていて、中西(準子)先生を教授にして出すことにした。その代わり教務職のポストを一つ出したんだよ、横山(道子)さんのポスト。彼女を助手にして、その代わり一つ教授のポストを採ると。そこへ中西さんを入れる。これも結構苦労したんだけど。有馬(朗人)総長のころかな、吉川(弘之)総長だったかな。今は結局あそこで1講座出来た？

— 山本先生と中島先生と福士先生で1講座出来てますね。

おかげで1講座増えたんだね。廃棄物を主として、山本(和夫)先生に支えてやってもらうっていうのが、中西さんが辞めた後のビジョンだったね。

センターでは廃液処理も全部自前でやってた。その代わり 10 年期限で始めて。結局生研？からも教授が来だし、化学工学からも来て、あそこは今 3 講座くらいになってるのかな。

— 先端研の方は、特定の分野を、というのはあったんですか。

それは、所謂ソフトな分野を、というのはあった。本郷の方は、どちらかというとハードな研究を、実験とかやるけど、先端研は実験とかの施設はないから、ソフトな分野をやろうと。ちょうど地球環境問題とかが出てきた頃だったから、花木先生なんかは先端研にいてソフトな分野の研究を始めることになった。あの人は有能だから何でも対応できるから。

— 花木先生は最初は嫌気性処理をやられておられましたよね。松尾先生がこれからは温暖化だって言われたという話を伺いましたが。

勿論、分野としては、一生水というのもあるんだけど、先生とか上に立つ人は、自分がどんどん変わっていかないといけない。もちろん生涯一分野と言うのもありだけど、下の人が育つ場所を狭めてしまう危険性があると言うことで、やっぱり駄目だっていうのが私の主義だったから。先に先生が変わる。そうすれば若い人たちはね、そのテーマを続けたければ続けて、あるところまできたら変わればいい。

— そういう意味では、先端研で温暖化のことも始め、安全センターで廃棄物も始めて、環境系の研究分野の幅が広がった時期ともいえますね。

そう、幅が広がったんですよ。

クボタの寄付講座に関して

クボタ講座は非常に画期的で、環境分野では日本の中でも東大が初めてクボタの寄付講座をやったんだよね。クボタの関係者(その方は東大出身じゃないんだけど)が寄付講座を提供してくれるというんで、藤田先生が受けてこられた。あの当時北脇(秀俊;現 東洋大)さんとか、桜井(国俊;現 琉球大学)さんとか、海外で活躍していた人を入れて、国際化をテーマにやろうっていうのが狙いだったよね。

— すごく印象に残ってますね。学部の演習も桜井先生と北脇先生が、開発途上国での問題をテーマとして掲げて演習をやるという、今までの演習とは少し違う演習を組まれてましたね。卒論も海外に行って調査をするというのが始まったような時期ですよ。

だから、そういう意味では都市工の国際化の上では、非常に彼らが機能してくれたと思うんだけどね。

— 寄付講座はクボタの方から突然申し入れがあったんですか？

元々、藤田先生を通して話があって、是非やろう、ということで受けましたね。非常にクボタも調子の良いころだったと思うんですよ。この頃が、日本のメーカーが一番元気だったころかもしれない。

— 卒業後の就職先にもメーカー就職とかが多かった時期ですよ。桜井先生とか北脇先生はWHOとかで活躍されておられたんですよ。

そう、北脇さんはWHOでやってたから、一番いいだろうと。桜井さんは大学院修了以来、外でやってて。彼の能力をなんとか出来ないかというんで。そういう意味では、少し役立って貰おうと寄付講座の教授をお願いした。彼(桜井先生)はその後選挙に出たり、沖縄にいったね、沖縄大学の学長までやってるから、達者な人ですよ。

— 環境系だけでなく、計画系の学生さんもクボタの講座で連携しましたね。瀬田(史彦)さん(現 都市工 准教授)とかは、計画系ですけどクボタの講座と連携して卒論をやられたりしてましたね。どれくらいクボタの講座は続いたんですか。

元々は、一期5年ってことでしたね。延長したのかな。私が退官した時(2000年)はもうなかったですね。

COEプロジェクト・国際シンポジウムに関して

— 微生物関連の一番最初のCOEはいつ頃でしたでしょうか。

5年のうちの4年で僕は辞めてるから1996年くらいかな、COEを取ったのは。東大の中でも数少ないし、工学部の中でも2件でしたね。なんで私らが取ったのかっていう、非常に羨望があった(笑)。なんで下水処理なんかやっている都市工がCOEなのかわかんねえ、って言うのが大勢いたね。東京都からも実験場を作ってもらったりとかね。よく取れたって言えば、よく取れたよね。色んなことを言う人はいたんですよ。

あの時、僕はプレゼンテーションをパワーポイントなどは無いから、OHP でやったんだけど、ようするに、ただの下水処理って思うかもしれないが、非常に科学的な意味があるんだと。実際の現場の実験装置を持たないと、何故そうなるのかとか、実際どうなるのかとか、わかり得ない。それが欲しいんだと。そういう意味では、水処理の分野をね、サイエンスに近づける。サイエンスと技術との融合っていうのをね主張したわけ。

それで、たまたまラッキーだったのが、有馬(朗人)元総長が審査員にいたし吉川(弘之)総長もいたし、東大の副学長だった鈴木(昭憲)先生もいたから、審査員の中に私の知ってる人がいてくれた。あと京大の総長とかね。それらの人の前で、素粒子の物理学が発展するためには加速器が必要だと。加速器みたいなものが現場の処理場できちんとコントロールしながら出来るようになって、初めて現象を理解できる。そういう場を持たない限りは、いつまでたっても経験からになってしまう。どうしてもサイエンスと技術との橋渡しをやりたいんだって、熱弁を振るったんですよ。下水処理のパイロットプラントは加速器と同じだって、それだけ言うなら、やらせてみようかって思ってくれたと思うんだけどね(笑)。

— 実際の現象を調べられる現場があるっていうのは、大きかったですよね。芝浦(下水処理場のパイロットプラント)がその時ですね。

そうそう。それで東京都に頼んで、建物を建てさせてもらってね。こちらの管理でやりますからって。サンプリングを出来るようにしてもらってね。よくやってくれたと思うんだけど。あれも今は、無くなっちゃったの？

— 芝浦はもう無いですね。今は、砂町(水再生センター)にありますね。

— COE に絡めて国際シンポジウムも行っていましたね。

毎年国際シンポジウムをやってたね。発表会って言って、安田講堂とかでやったりね。この頃、この分野での英語での論文数が、東大の環境系が日本の中では飛び抜けてたし、国際的にも評価の高いレベルに達していた。それはね、留学生を出したり、みんなをね、日本人も、兎に角、外に行って発表するってのが当たり前になってたってのがある。その結果として、国際化は東大が一番進んだってのがね、その成果だったんだと思う。COE の成果だし、留学生もやってきて、みなさんが兎に角外に出ること、英語で論文を書くことに関して当たり前になった雰囲気があったね。

— 日本人の学生さんで海外に留学する人もいたんですか。

それは、少なかったんだよ。日本のなかで納まっちゃってましたね。英語使えるのは結構いるんだけど。東大から留学した人ってのは非常に少ない。一度就職した人が、そこからアメリカにいったりとかドイツにいったりとかは、結構いるんだけどね。日本の基礎研究だって大事だし、みんな留学して外に行って日本が空洞化しても困るところがあるしね。今の時代、留学留学って言うけど、そのへんは良く考えないとね。

今後の都市工学科についてのご意見、学科発展へのメッセージなど

それぞれ頑張ってるって思ってるんだけど。最初は3講座で3人の教授だったのが、今は6人で2倍になってる。そういう意味じゃ、この50年で教授が倍増してる学科なんてないと思うんだよね。助手(助教)の人数が減ってるってのは、問題なんだけど。

— 最初の頃、助手(助教)の人はどれくらいおられたんですかね。

3 講座に対して、5 人くらい。1.5 倍はいた。

— 今、都市工(環境系)の助教は 2 名ですね。実質は、都市工で 2 名 GCOE で 1 名の 3 名です。

— 駒場からの進振りに関してはいかがですか。

自治体とか現場の仕事との組み合わせが、活動のなかに見えると思うんだけどね。社会基盤が進振りで良いのは、不況だと言いながら根強い潜在的な仕事があるはずだって思われてるというのがあるんだろね。環境関係のそういうニーズがあるということ、役所で言えば環境省とか国交省に限らずいろいろな分野でもそういうニーズが多いということを示していかなくてもいけないと思うんだよね。外から見て魅力的な出口があればね。水ビジネスもあるし、環境が国際的な意味でも大事っていうものもあるし。改めて、最も国際化している学科なんだということを示していないと。

— 研究の面ではどうですか。研究として新たな発展があるとする。

水処理なんかもね、遺伝子レベルで細くなってる割にはね、新しい視点は少なくなっているのかもしれないね。社会全般に対して思ってることなんだけど、例えば水質汚濁に関心が減ってきてる。どんどん綺麗になってきちゃって、関心が無くなってるんじゃないかな。下水道を繋がるなくてもいいとか、ぬけぬけと言って法律改正しようっていう議員グループがいるわけ。おかしいと思うんだよね。昔だったらね、経済性と環境とどっちをとるかかっていったら、環境って言うってたんだよね。今は、(コストが)高いから環境のことはやらなくていいっていう。そういう意味じゃ、新しい産業的なものとの関連とか、環境の分野から入るけど健康とか医療関連とか、エネルギー関連とか、技術の分野での存立基盤を広げる活動を始めた方がいいのではないかなと思うんだよね。社会が求めているものに遠慮しないで取り組んでいく勇気が必要だと思うけど、どうかな。マンネリ化していないか見直してほしいですね。

学生へのメッセージ

今の学生さんはね、やる仕事自体は多様にあると思うのね。地球環境問題からローカルな問題から。放射性廃棄物もね。原子力発電の問題をどう評価するかとか、インフラのメンテナンス技術とか。その時、自分で興味を持てる範囲を絞り込んで、そのテーマにこだわりを持つことは絶対に必要だよ。関心を持って、環境問題とか地域の問題とか都市の問題とか国のあり方の問題まで含めてね、どうあるべきかとか、なんでそうなのかとか問題意識を持ってやれば、自ずとやりたいことも見えてくるだろうし。社会がそれを必要としてると思うからね。自分が解らないとか、どうしてかって思ったら、それは誰にも解ってないと思っていいんだよ。偉そうな人が前にやったとかいっても、そんなことは気にしないで、自分がやりたいと思ったら解るまでやってみたらいい。自分のやっていることを自分で納得出来れば、展望は開けると思いますよ。頑張ってください。